

ササハタハツ
Area Vision Book

Area Vision Review
2025

資料編

〔発行〕ササハタハツまちラボ

はじめに

資料編では、エリアビジョンのレビューにあたり、
2024年に実施したアンケート結果の詳細や、
過去に実施した同様のアンケート結果との比較・分析、
さらにエリアビジョンレビュー検討会での意見をまとめています。
また、まちのプロジェクトの紹介として、
まちラボが支援している「ササハピプロジェクト」の紹介も行っています。
エリアビジョンレビューブック本編と併せて読んでいただくことで、
ササハタハツエリアの現状について、
より深く理解して頂ける内容となっています。

目次

1. 2024 年度アンケート調査	1
1.1. 調査の概要	1
1.2. アンケート回答者とササハタハツエリア全体との比較	2
1.3. 調査結果.....	3
2. エリアビジョンレビュー検討会.....	40
2.1. 検討会について	40
2.2. 第 1 回エリアビジョンレビュー検討会.....	41
2.3. 第 2 回エリアビジョンレビュー検討会.....	43
3. まちのプロジェクト紹介	45
3.1. ササハタハツピープルまちづくりサポート（ササハピ）事業とは.....	45
3.2. ササハピ認定プロジェクト一覧表（第 1 期～第 4 期）	46
3.3. ササハピパートナーシッププロジェクトの活動紹介.....	47
3.4. まちラボが関わるまちの取り組みマップ	53

1. 2024 年度アンケート調査

1.1. 調査の概要

ササハタハツエリアビジョンをレビュー（検証）するにあたり、まちラボでは、ビジョン策定から3 か年度目を迎えるまちの現状を把握し今後の活動に役立てるために、ササハタハツエリアに関してのアンケート調査を実施しました。頂いた意見は、ビジョンレビュー検討会等で共有をし、ビジョンレビューを行う上で貴重な基礎資料として参照しました。

2024 年度のアンケート

【期間】 約 3 週間（2024 年 11 月 8 日（火）～12 月 2 日（月））

【方法】 Google form および紙面での回答

【周知】 渋谷区及びまちラボ SNS、区施設などにアンケート用紙を設置

【設問数】 22 問

【回収数】 707 件

以下に、2024 年のアンケートとの比較に用いた過去のアンケート概要をまとめます。

2021 年度のアンケート（第 1 回）

【期間】 約 4 週間（2021 年 9 月 21 日～10 月 17 日）

【方法】 Google form および紙面での回答

【周知】 渋谷区及びまちラボ SNS、区施設などにアンケート用紙を設置

【設問数】 13 問

【回収数】 498 件

2020 年度のアンケート

【期間】 約 3 週間（2021 年 1 月 22 日～2 月 15 日）

【方法】 Google form および紙面での回答

【周知】 渋谷区及びまちラボ SNS、区施設などにアンケート用紙を設置

【設問数】 18 問

【回収数】 958 件

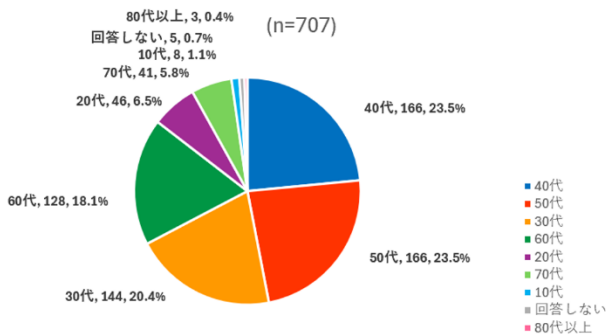
1.2. アンケート回答者とササハタハツエリア全体との比較

今回（2024年）のアンケート回答者（標本）と、ササハタハツエリア全体（母集団）※との、年齢と世帯の家族類型に関する比較を行いました。

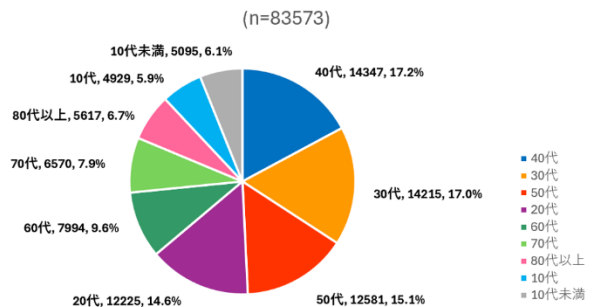
※本ビジョンで示すササハタハツエリアは、概ね笹塚駅・幡ヶ谷駅・初台駅を中心とした徒歩圏内およそ500m～1kmの範囲を指します。以下のササハタハツエリア全体（母集団）のグラフでは、笹塚1～3丁目、幡ヶ谷1～3丁目、大山町、西原1～3丁目、本町1～6丁目、初台1～2丁目を対象としており、本ビジョンが示すササハタハツエリアを概ねカバーしています。

<年齢>

アンケート回答者（標本）



ササハタハツエリア全体（母集団）



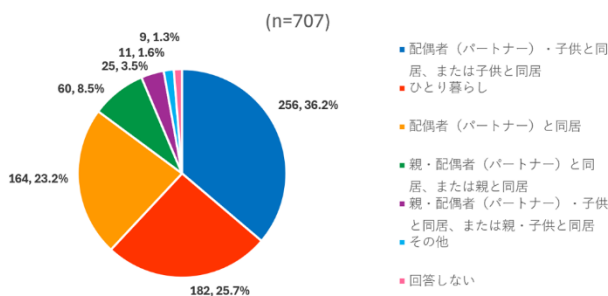
出所：令和7年 渋谷区 町丁目別年齢人口

（解説）

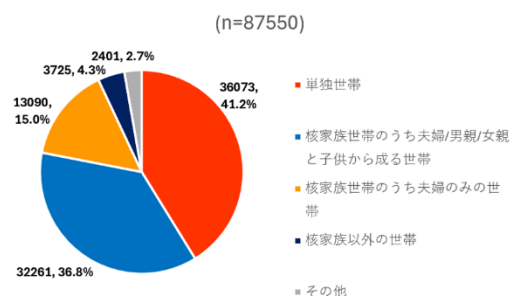
- アンケート回答者（標本）の年代構成は、ササハタハツエリア全体（母集団）と完全に一致しているわけではなく、特に20代や80代の割合が少ない傾向にあります。しかし、全体としては、ササハタハツエリア全体（母集団）の傾向と大きな差異は見られなかったと考えられます。

<世帯の家族類型>

アンケート回答者（標本）



ササハタハツエリア全体（母集団）



出所：令和2年 国勢調査 小地域集計（総務省統計局）

（解説）

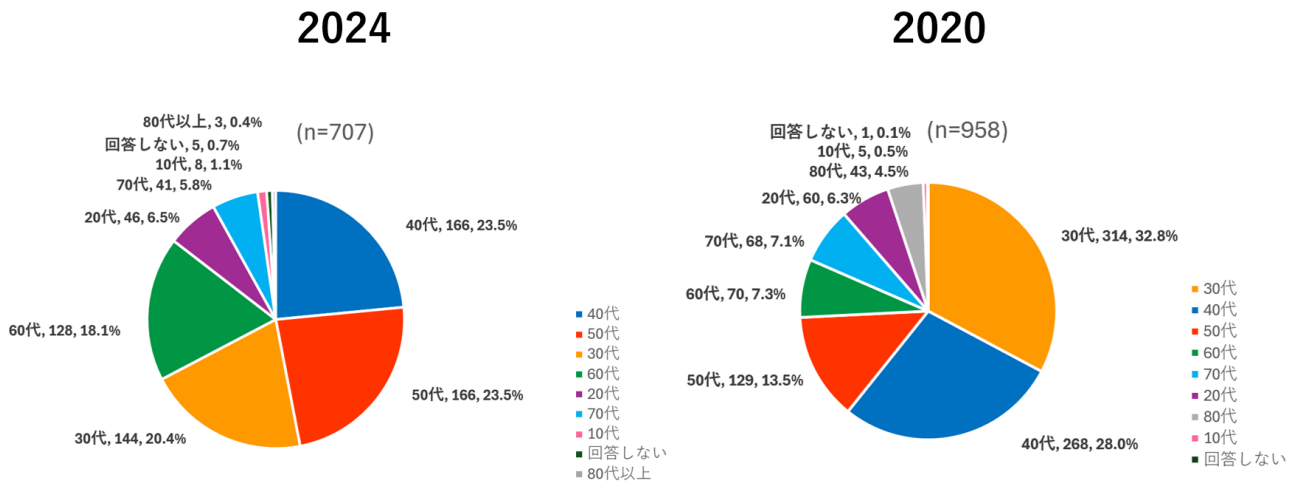
- アンケート回答者（標本）の世帯の家族類型は、ササハタハツエリア全体（母集団）と完全に一致しているわけではなく、特にひとり暮らしの割合が少ない傾向、また、配偶者（パートナー）と同居の割合が多い傾向が見られました。しかし、全体としては、ササハタハツエリア全体（母集団）の傾向と大きな差異は見られなかったと考えられます。

1.3. 調査結果

アンケート全設問とその回答結果および解説をまとめました。設問によっては、2020年または2021年に実施した同様のアンケート結果と比較・分析を行いました。

Q-1 あなたの年齢を教えてください。

707件の回答



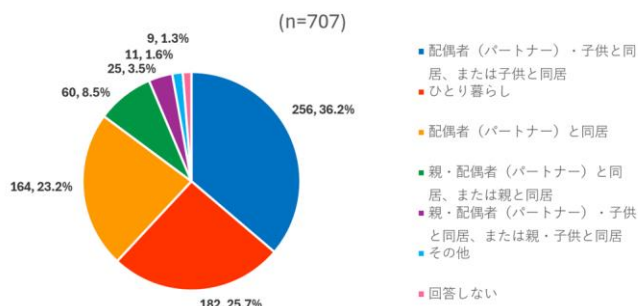
(解説)

- 回答割合が多い順は、「40代」、「50代」、「30代」、「60代」、「20代」、「70代」、「10代」、「回答しない」、「80代以上」となりました。
- 2020年のアンケートの、同じ内容の設問と比較すると、30代は約12ポイント、40代は約5ポイント減少し、50代は約10ポイント、60代は約11ポイント増加しました。

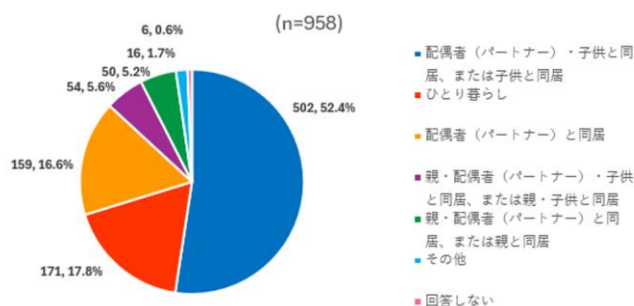
Q-2 同居している家族構成を教えてください

707 件の回答

2024



2020



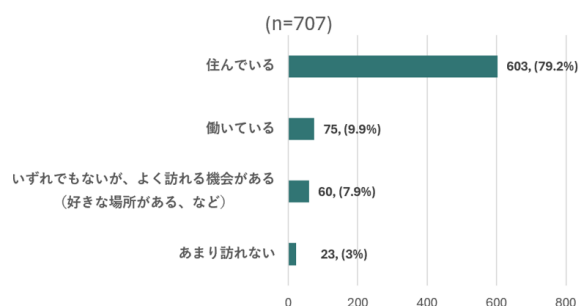
(解説)

- 回答割合が多かった上位3つは、「配偶者（パートナー）・子供と同居、または子供と同居」、「ひとり暮らし」、「パートナー・子供と同居」の順となりました。
- 2020年のアンケートと比較すると、各選択肢の順位は概ね同様の傾向となりました。

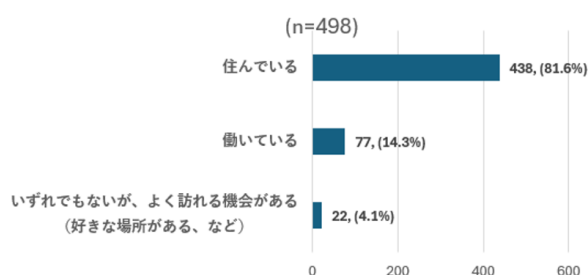
Q-3 笹塚・幡ヶ谷・初台・本町・西原・大山町のエリアにどのような関わりがありますか。 (複数回答可)

707 件の回答

2024



2021

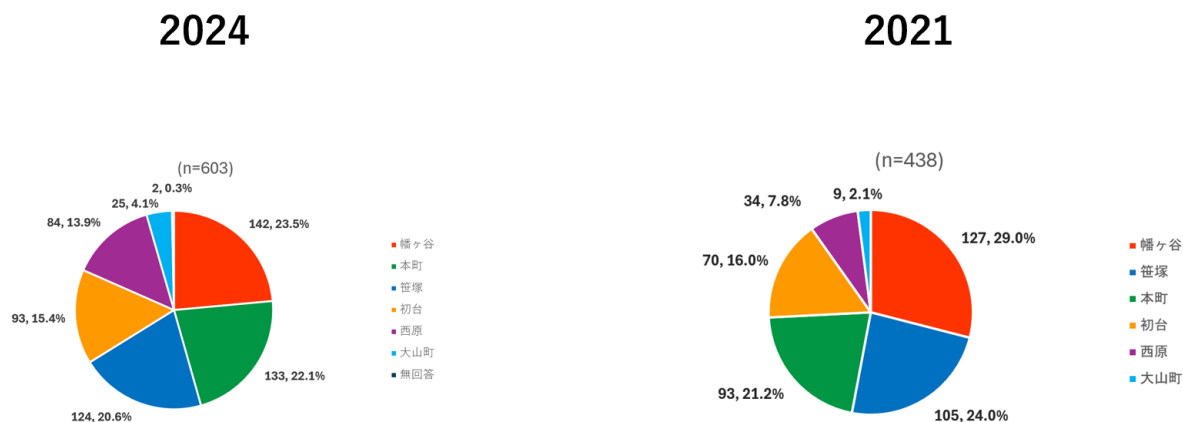


(解説)

- 「住んでいる」の回答が79.2%、「働いている」の回答が9.9%、「いずれでもないがよく訪れる機会がある」の回答が7.9%となりました。
- 2021年のアンケートと比較すると、各選択肢の順位は概ね同様の傾向となりました。

Q-4 Q-3で「住んでいる」とお答えされた方のみお伺いします。どのエリアに住んでいますか。

603件の回答

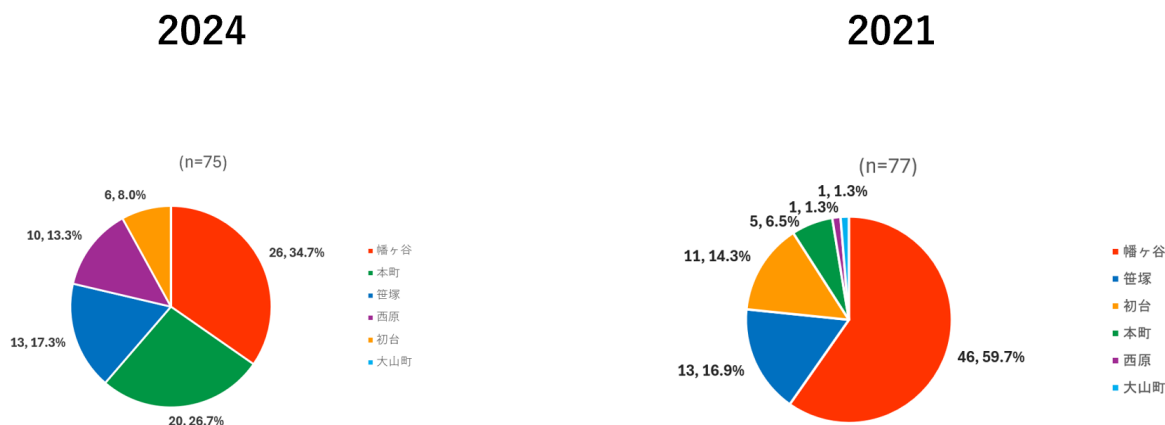


(解説)

- 回答者の住所には、地域ごとの大きな偏りは見られませんでした。
- 2024年のアンケートでは、初台・幡ヶ谷・笹塚の3駅がある地域で、初台地域のみ15%台と、幡ヶ谷・笹塚の20%台と比べて相対的にやや低い傾向が見られました。この傾向は、2021年のアンケートでも同様であったことが確認できます。
- 一方で、西原地域に居住していると回答した方の割合が、2021年の約8%と比べて2024年では約14%と増加しており、2021年との違いとして挙げられます。

Q-5 Q-3で「働いている」とお答えされた方のみお伺いします。どのエリアで働いていますか。

75件の回答

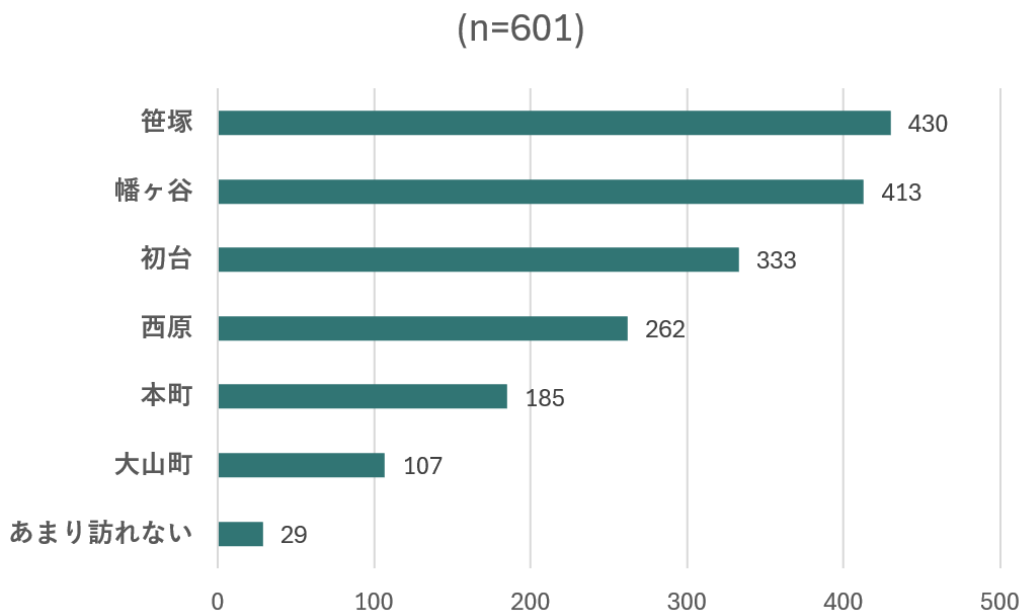


(解説)

- 2021年のアンケートと比較すると、本町および西原では大幅な増加が見られ、幡ヶ谷では減少傾向が確認されました。

Q-6 Q-3「住んでいる」または「働いている」とお答えされた方のみお伺いします。住む・働くエリア以外に訪れるエリアはありますか。(複数回答可)

601件の回答

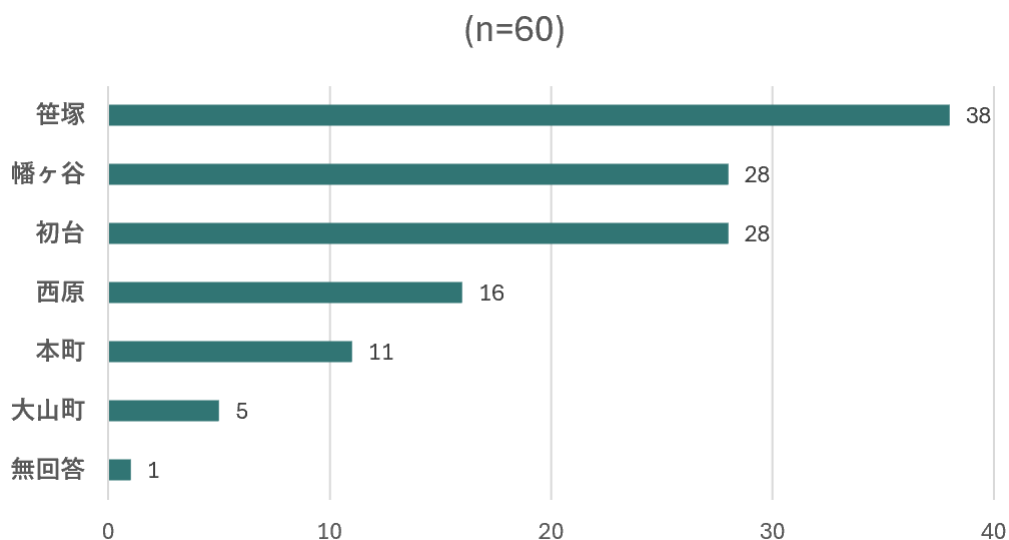


(解説)

- 回答数が多い順は、「笹塚」、「幡ヶ谷」、「初台」、「西原」、「本町」、「大山町」、「あまり訪れない」となりました。

Q-7 Q-3で「いずれでもないが、よく訪れる機会がある」とお答えされた方のみお伺いします。どのエリアによく訪れますか。(複数回答可) また、訪れる主な理由を教えてください。

60件の回答

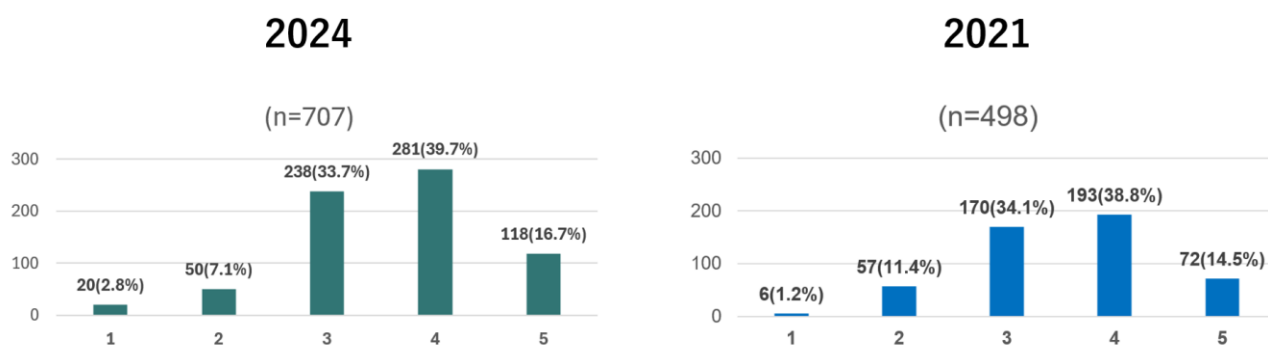


(解説)

- 回答数が多い順は、「笹塚」、「幡ヶ谷」、「初台」、「西原」、「本町」、「大山町」となりました。

Q-9-(1) まちの現状の総合的な満足度について、1つ選択してください。

707 件の回答



※回答選択肢は、5が最も満足度が高く、1が最も低い（不満）という5段階評価となっています。

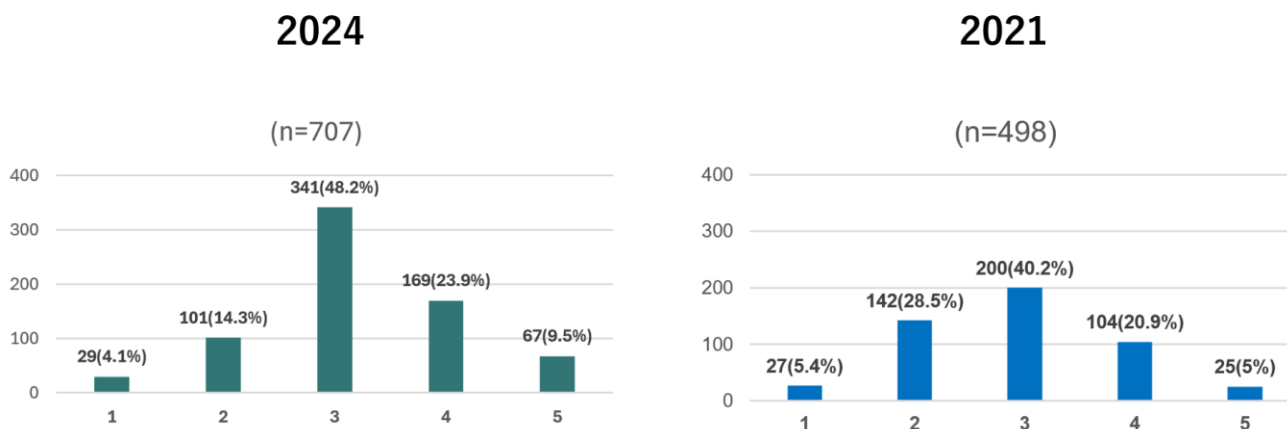
（解説）

- 2021年のアンケートと概ね同様の傾向が見られましたが、全体の満足度平均値※は2021年の0.53から2024年には0.56へと上昇しました。

※回答全体のうち満足度4、5を回答した割合

Q-9-(2-1) テーマ1：コミュニティ "人と人がつながり、暮らしを支え合う"の現状の総合的な満足度について、1つ選択してください。

707 件の回答



※回答選択肢は、5 が最も満足度が高く、1 が最も低い（不満）という 5 段階評価となっています。

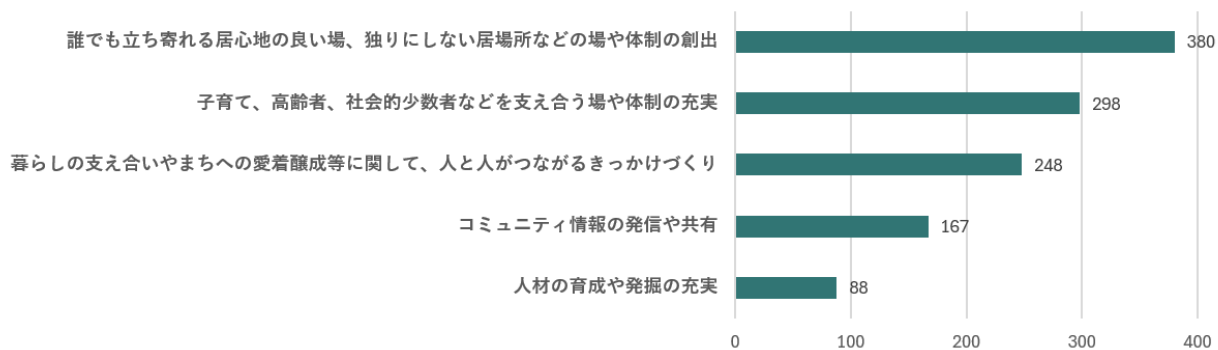
（解説）

- 2021 年のアンケートと比べ、4 の割合が増加し 2 の割合が減少して逆転する結果となりました。

Q-9-(2-2) こんな取り組みがあると良いと考えられるものをお選びください(複数回答可)

707 件の回答

選択肢で得られた回答：



（解説）

- 「誰でも立ち寄れる居心地の良い場、独りにしない居場所などの場や体制の創出」が最も多く、続いて、「子育て、高齢者、社会的少数者などを支え合う場や体制の充実」、「暮らしの支え合いやまちへの愛着醸成等に関して、人と人がつながるきっかけづくり」、「コミュニティ情報の発信や共有」、「人材の育成や発掘の充実」の順となりました。

自由記述形式で得られた回答※：（意見総数 18 件）

※意見を分類し、件数順に並べた結果です。意見は原文ではなく概要を記載し、重複した内容は一つにまとめています。また、各テーマの主旨に直接関係しない意見については省略しています。

1. 現状維持（7件）

- 現状の存続を希望
 - 自然に生まれる人間関係（偶然や必然のつながり）で十分
 - 無理に人とつながる必要がないよう、まず行政による安心の土台づくりを希望
 - コミュニティの押し付けがないもの
 - 職場・学校・近所などでのつながりで十分と感じている。公園や散歩などの場所は、気軽に自由に使える空間として保ってほしい。そういった場所にコミュニティを作ることには強く反対（精神的に疲れるため）。企業が商売目的で関与する取り組みは、住民間の対立や分断を招いている
-

2. 世代別の取り組み（3件）

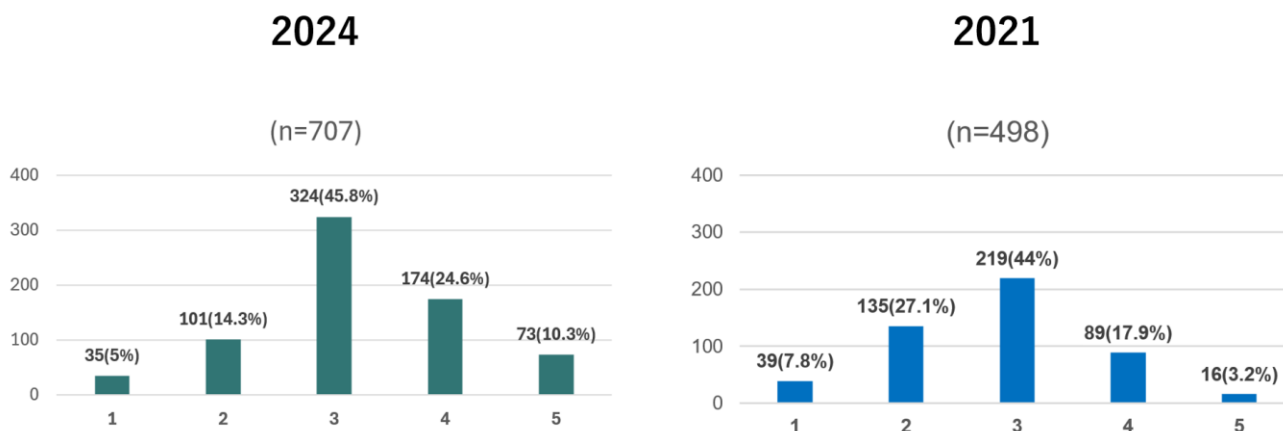
- 働く世代向けのコミュニティづくりを推進してほしい（高齢者ではなく現役世代が対象）
- 子育て世代や高齢者、社会的少数者以外の「働き盛りの男性」にも焦点を当てた施策が必要
- この地域で安心して子を産み育てられるかどうか不安なため、人とつながる前に、まず信頼できる情報とつながれる仕組みがほしい。そのうえで、必要に応じて人とつながれるような柔軟な仕組みがあれば心強い

3. その他（4件）

- 地域の町会には人手不足があるため、ボランティアに過度な負担がかからない仕組みを希望
- 在住者が無料で使える体育館を増やしてほしい
- お祭りなどの活用
- 緑や自然環境を守る活動

Q-9-(3-1) テーマ2：健康 "誰もが健康に暮らせるための場や機会をつくる" の現状の総合的な満足度について、1つ選択してください。

707件の回答



※回答選択肢は、5が最も満足度が高く、1が最も低い（不満）という5段階評価となっています。

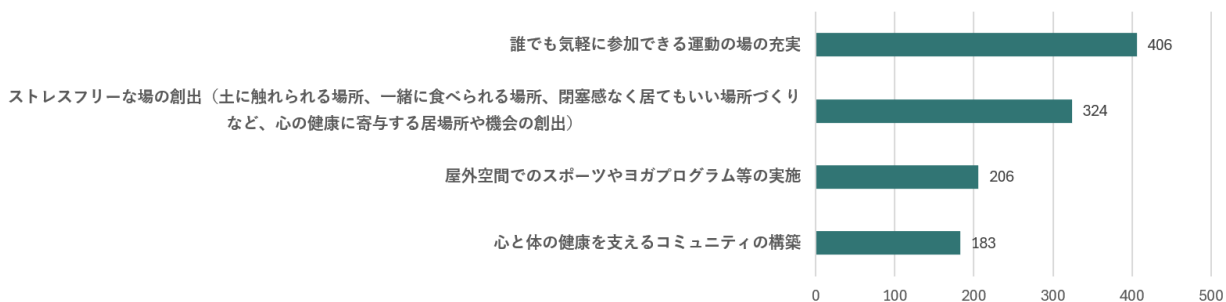
（解説）

- 2021年のアンケートと比べ、4の割合が増加し2の割合が減少して逆転する結果となりました。
- また2021年と比べ、1が減少しました。

Q-9-(3-2) こんな取り組みがあると良いと考えられるものをお選びください(複数回答可)

707件の回答

選択肢で得られた回答：



（解説）

- 「誰でも気軽に参加できる運動の場の充実」が最も多く、続いて、「ストレスフリーな場の創出（土に触れられる場所、一緒に食べられる場所、閉塞感なく居てもいい場所づくりなど、心の健康に寄与する居場所や機会の創出）」、「屋外空間でのスポーツやヨガプログラム等の実施」、「心と体の健康を支えるコミュニティの構築」の順となりました。

自由記述形式で得られた回答※：（意見総数 29 件）

※意見を分類し、件数順に並べた結果です。意見は原文ではなく概要を記載し、重複した内容は一つにまとめています。また、各テーマの主旨に直接関係しない意見については省略しています。

1. 環境（6件）

- 健康のために緑や木陰を多くして、環境保護をする、夏場の暑さをしのぎやすくする
 - 静かな自然環境だけで十分
 - 賑わいに影響されない、静かな住環境
-

2. 場や機会に関すること（4件）

- 安価に継続できるスポーツやヨガ教室、フィットネスクラブの取り組み
 - 在住者が無料で使える体育館
 - 安価に使える屋内運動施設の設置
-

3. 世代別の取り組み（4件）

- 各種企画をもっと安価にし、高齢者や子どもは無料にするなど、誰も取りこぼさない取り組みが必要
 - 子どもと高齢者に偏りすぎている気がする
 - 小さい子どもがいても、安心して集中できる取り組み
 - 禁止事項が少なく子どもの運動能力が育てられる場づくり
-

4. 相談窓口（2件）

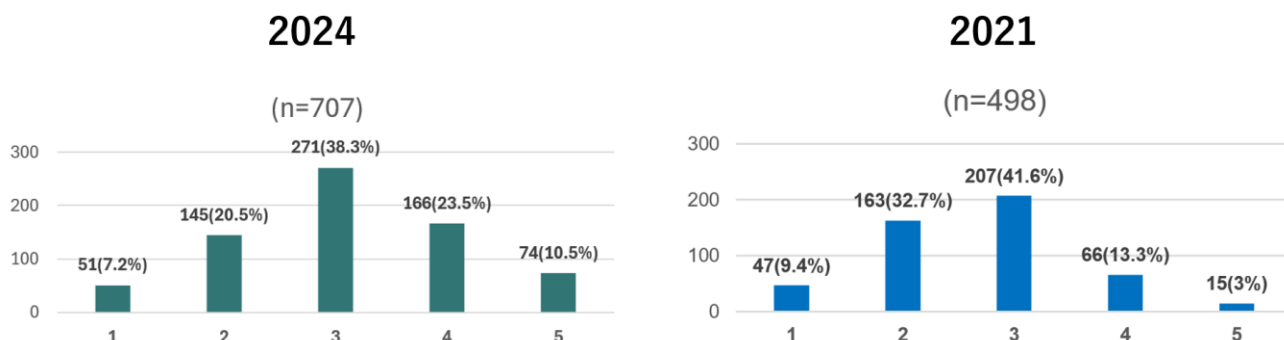
- 健康について気軽に相談できる窓口の設置や、区民ボランティアの育成
 - 身体だけでなく心の健康にも配慮し、カウンセリングや傾聴の場を増やしてほしい。近隣の大学の臨床心理センターに出張対応してもらうなどの取り組みがあるとよい
-

5. その他（10件）

- 現状のままで問題ない
- 情報発信をもっと充実させてほしい
- 参加や利用の機会があまりないと感じる
- 心の健康のために、ドリンクロス（飲み残しや廃棄）の削減をみんなで考える（※飲み物が捨てられると不安やうつが悪化する人がいる）
- 男性の目を気にせず運動できる場を確保してほしい
- 誰でも使える施設が一部の人に占有されないよう管理してほしい
- 大学病院や総合病院に代わりうる医療機関の連携
- 喫煙スペースの廃止、歩行喫煙やポイ捨ての厳重な取締りの実施
- 緑道に遊具を増やして本格的な公園にする

Q-9-(4-1) テーマ3：パブリックスペース "公共空間をまちの居場所として積極的に使い、育てる"の現状の総合的な満足度について、1つ選択してください。

707件の回答



※回答選択肢は、5が最も満足度が高く、1が最も低い（不満）という5段階評価となっています。

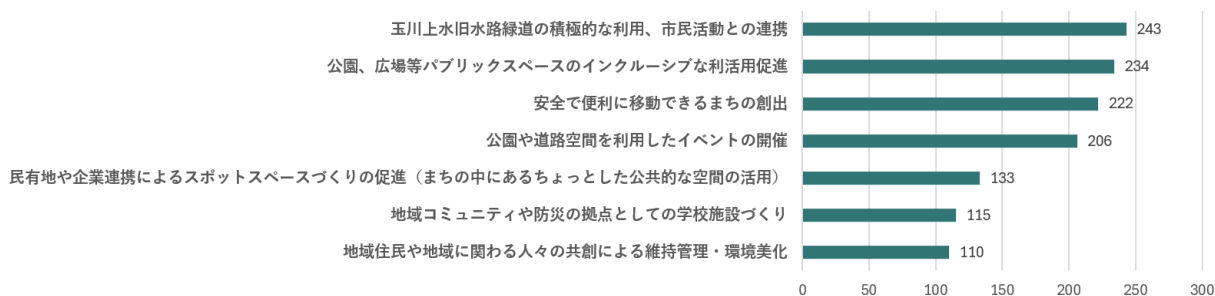
(解説)

- 2021年のアンケートと比べ、4の割合が増加し2の割合が減少して逆転する結果となりました。
- また2021年と比べ、5が増え1が減り、5と1の割合も逆転しました。

Q-9-(4-2) こんな取り組みがあると良いと考えられるものをお選びください(複数回答可)

707件の回答

選択肢で得られた回答：



(解説)

- 「玉川上水旧水路緑道の積極的な利用、市民活動との連携」が最も多く、続いて、「公園、広場等パブリックスペースのインクルーシブな利活用促進」、「安全で便利に移動できるまちの創出」、「公園や道路空間を利用したイベントの開催」、「民有地や企業連携によるスポットスペースづくりの促進 (まちの中にあるちょっとした公共的な空間の活用)」、「地域コミュニティや防災の拠点としての学校施設づくり」、「地域住民や地域に関わる人々の共創による維持管理・環境美化」の順となりました。

自由記述形式で得られた回答※：（意見総数 29 件）

※意見を分類し、件数順に並べた結果です。意見は原文ではなく概要を記載し、重複した内容は一つにまとめています。また、各テーマの主旨に直接関係しない意見については省略しています。

1. パブリックスペースの機能（7件）

- 道路にちょっと休めたり楽しめたりするスペースづくり
 - 芝生や公園を増やしてほしい
 - 女性用の公衆トイレの設置
 - 防災の観点での公民館や避難所、備蓄スペースの確保
 - 非常時に備えた公園へのかまどベンチの設置。猛暑日に水遊びができ、非常時には簡易的な台所になるスペースの設置
 - ドッグランなどができるスペースづくり
 - 分煙された公共の喫煙スペース
-

2. 緑道再整備に関すること（8件）

- 高価なベンチは不要。シンプルで実用的なものを重視すべき
 - 緑道に遊具を増やして本格的な公園にする
 - 農園活動の中止。農園は他の適切な場所で行うべき
 - 緑道の自然を残してほしい
 - 今の緑道を活かすだけで良い
 - 道路や公共空間でのイベントは不要。玉川上水の素朴な状態の維持、管理の徹底
 - 人々が癒される緑を守る、自然の中の居場所を守る。開発は不要
 - 歴史的価値のある玉川上水道の復活
-

3. パブリックスペースを活用した取り組み（3件）

- イベントは渋谷駅や原宿駅周辺のみで行ってほしい
 - 取り組みは渋谷駅の方に片寄っている
 - パブリックスペースを活用した、暮らしと企業とのつながりを深める取り組み（特に初台など）
-

4 公共空間の管理に関すること（2件）

- 老朽化した古い遊具の修復
 - 児童遊園地の再整備。暗い雰囲気や生い茂った草木の改善
-

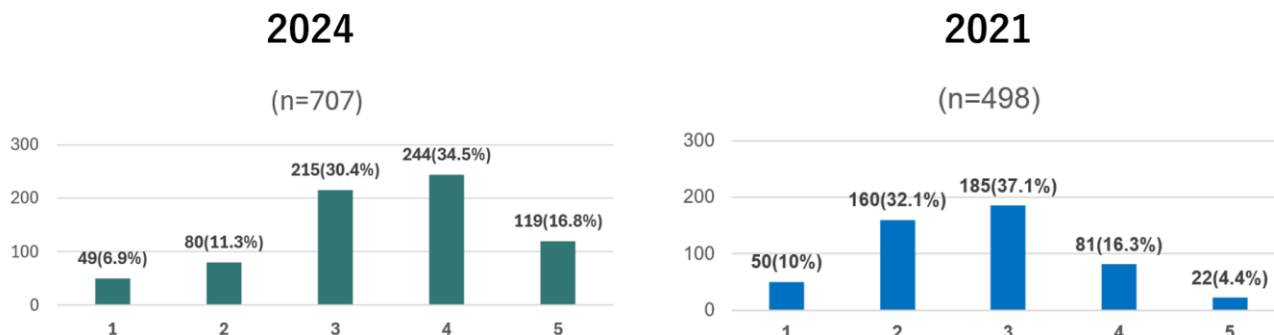
5. その他（6件）

- 現状のままで問題ない
- 公衆トイレがとてもきれい
- 甲州街道で分断されているが、それを解消する地下街や歩道橋などの設置
- 安全が優先され、治安が改善され安心して過ごせる公共施設

Q-9-(5-1) テーマ4：賑わい "商店街や個性ある店舗の集積を活かし、まちの賑わいをつくる"

の現状の総合的な満足度について、1つ選択してください。

707件の回答



※回答選択肢は、5が最も満足度が高く、1が最も低い（不満）という5段階評価となっています。

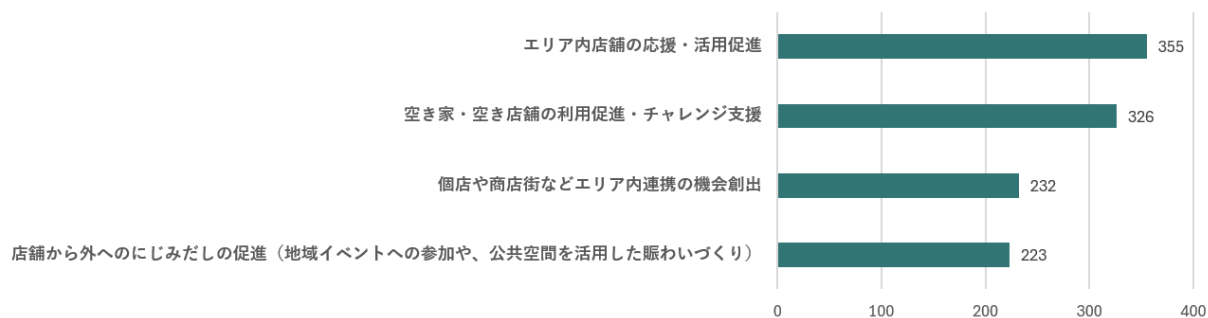
（解説）

- 2021年のアンケートと比べ、4の割合が増え、3の割合を上回る結果となりました。

Q-9-(5-2) こんな取り組みがあると良いと考えられるものをお選びください(複数回答可)

707件の回答

選択肢で得られた回答：



（解説）

- 「エリア内店舗の応援・活用促進」が最も多く、続いて、「空き家・空き店舗の利用促進・チャレンジ支援」、「個店や商店街などエリア内連携の機会創出」、「店舗から外へのにじみだしの促進（地域イベントへの参加や、公共空間を活用した賑わいづくり）」の順となりました。

自由記述形式で得られた回答※：（意見総数 25 件）

※意見を分類し、件数順に並べた結果です。意見は原文ではなく概要を記載し、重複した内容は一つにまとめています。また、各テーマの主旨に直接関係しない意見については省略しています。

1. 商店街・個店（9件）

- 商店街の意見だけでなく、周辺住民の声も取り入れたまちづくりを進めてほしい
 - 商店街が消滅している
 - 初台では商店街の衰退が著しく、生活に密着した店舗が極端に少ない
 - 近隣に子ども用品を買えるお店があると良い
 - 働く世代が商店街を格安で利用できる仕組みづくり
 - シャッター店舗の改善
 - 不動通り商店街にお店が少ない。マンションやアパートへの建替えが多く、商店街の機能が衰退していると感じる
 - 大型スーパーを誘致して、商店街全体を活性化する
 - 既存の商店街を壊さないでほしい
-

2. 安心・安全（3件）

- 観光客向けの話題店や行列ができる店は不要。交通ルールを守らないことに不快感を抱いている
 - 賑わい優先で治安や住民の安全が損なわれないようにしてほしい
 - 空き家活用は治安悪化につながる活動拠点になる懸念があるため、推進には反対
-

3. エリア連携（1件）

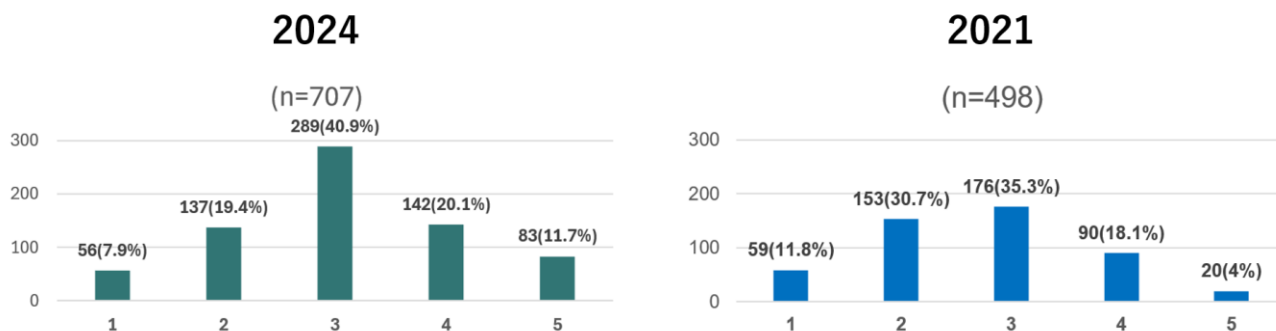
- 他のエリアとつなげる取り組み（特に初台など）
-

4. その他（9件）

- 渋谷にはこれ以上賑わいは不要
- 在住・在勤・在学者を対象に、地域のにぎわい創出を目的とした活動に限定すべき
- 公共空間の利用は地域住民との対話のうえ進めること
- 外国企業や若い人にはばかり優遇している
- 駅前には既に混んでいるので、緑道や公園も人が賑わうと良い
- 商業施設に座ったり休む椅子が昔はあったが、今はないのが不満

Q-9-(6-1) テーマ5：自然環境 "自然と共生し、持続可能なまちづくりに貢献する" の現状の総合的な満足度について、1つ選択してください。

707件の回答



※回答選択肢は、5が最も満足度が高く、1が最も低い（不満）という5段階評価となっています。

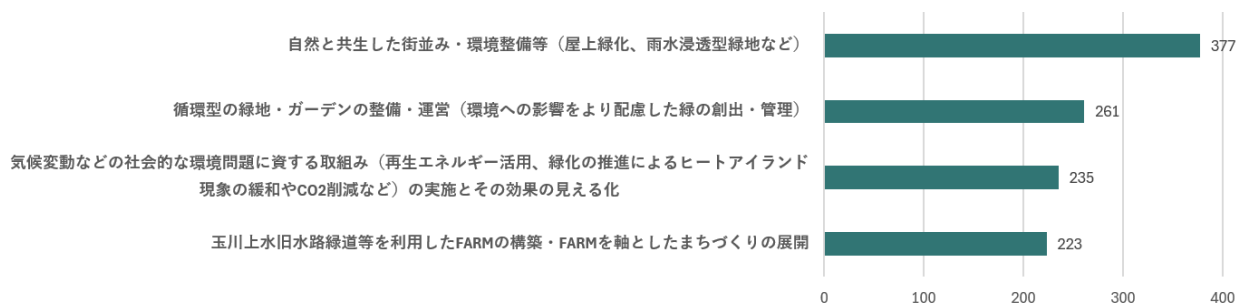
(解説)

- 2021年のアンケートと比べ、4の割合が増加し2の割合が減少して逆転する結果となりました。
- また2021年と比べ、1が減少しました。

Q-9-(6-2) こんな取り組みがあると良いと考えられるものをお選びください(複数回答可)

707件の回答

選択肢で得られた回答：



(解説)

- 「自然と共生した街並み・環境整備等（屋上緑化、雨水浸透型緑地など）」が最も多く、続いて、「循環型の緑地・ガーデンの整備・運営（環境への影響をより配慮した緑の創出・管理）」、「気候変動などの社会的な環境問題に資する取り組み（再生エネルギー活用、緑化の推進によるヒートアイランド現象の緩和やCO2削減など）の実施とその効果の見える化」、「玉川上水旧水路緑道等を利用したFARMの構築・FARMを軸としたまちづくりの展開」の順となりました。

自由記述形式で得られた回答※：（意見総数 38 件）

※意見を分類し、件数順に並べた結果です。意見は原文ではなく概要を記載し、重複した内容は一つにまとめています。また、各テーマの主旨に直接関係しない意見については省略しています。

1. 緑道再整備事業に関すること（19 件）

- 表面的な「自然保護」や「農のある暮らし」へのイメージだけで意見が分断されており、正しい知識に基づく学びの場（勉強会）を設ける必要がある。
 - 地球温暖化が進む中で、開発よりも自然の保全・拡大を優先すべき。「FARM」という考え方には共感できず、空気の悪い場所での農作は疑問。学校や空地の活用を検討すべき
 - 植物の手入れと歩道の整備を充実させれば、手の込んだ変更を加えなくても渋谷区の緑道も十分楽しくなる
 - 樹木伐採などで緑道の景観を破壊しないで欲しい
 - FARM（農園）は不要
 - 自然を大事に手をかけすぎない
 - 緑道の改変に反対
 - 緑道に遊具を増やして本格的な公園にする
 - 緑道があまり使われていなさそう、木が切られて残念
 - 今ある木々を大切に継承する
 - FARM（農園）は初台のみでしてほしい
-

2. 緑化（3 件）

- 個人宅の庭や屋上の緑化、玄関先の鉢植えなど、小規模な緑化活動への支援が必要
 - 屋上緑化は費用がかかるだけで効果はないのでは
-

3. 再利用（2 件）

- イベントで捨てられる麦茶を、植物の水やりに活用できないかと考えている。特に幡ヶ谷のカフェガーデンのように公園であれば、イベント後に捨てる麦茶を植物の水やりに使うという提案
 - 渋谷区のプラスチックのごみはどれくらいリサイクルされているのか知りたい
-

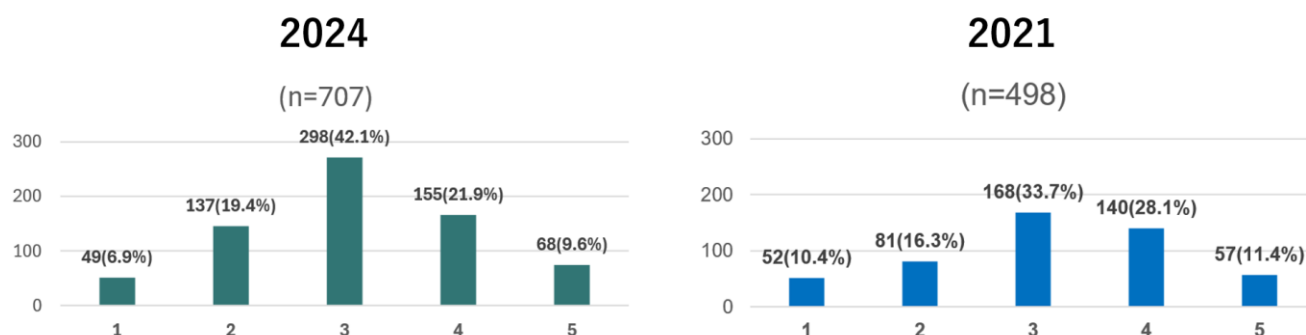
4. その他（12 件）

- 現状に満足、安全性が高まれば更によい
- 緑は賛成だが、そのせいで子供や女性の一人歩きの死角を作らないでほしい。夜こそ安全に歩けるようにしてほしい
- 木の手入れの徹底。強剪定が酷い
- 既存の樹木の維持管理、有効活用
- 街路樹を増やす
- 手入れされていない道や草を綺麗にしてほしい
- 不要な樹木伐採や自然を破壊するような計画はやめてほしい
- 夏は木陰で涼しく、冬は陽だまりが暖かい歩道や道路を望む

- 水道道路沿いの公園を、人工芝の設置や園芸活動など緑豊かな憩いの場所として活用してほしい
- 東京都や渋谷区の空き地や未活用地を広場として開放
- 水やどろんこ遊びができる自然な公園施設の整備

Q-9-(7-1) テーマ 6：文化・芸術・歴史 "エリアの個性を活かし、身近な文化・芸術の場を支える"の現状の総合的な満足度について、1つ選択してください。

707 件の回答



※回答選択肢は、5 が最も満足度が高く、1 が最も低い（不満）という 5 段階評価となっています。

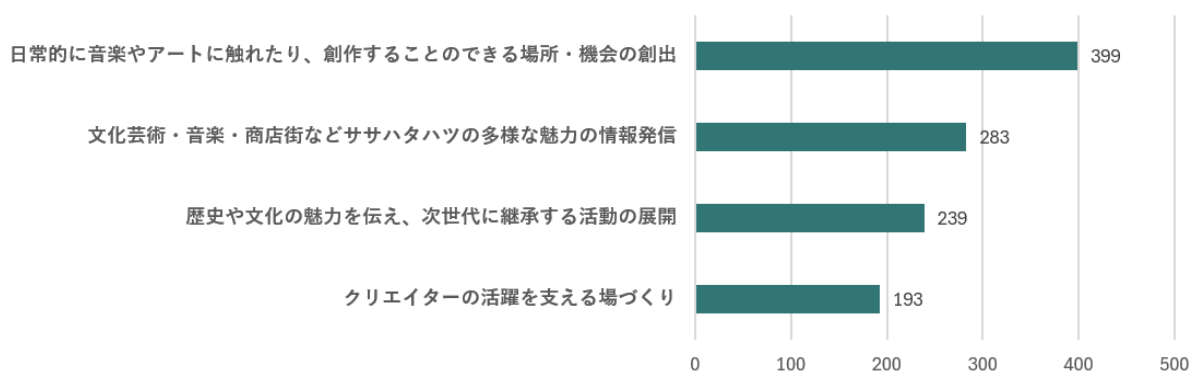
(解説)

- 2021 年のアンケートと比べ、4, 5 の割合が減少し 1, 2, 3 の割合が増加する結果となりました。

Q-9-(7-2) こんな取り組みがあると良いと考えられるものをお選びください(複数回答可)

707 件の回答

選択肢で得られた回答：



(解説)

- 「日常的に音楽やアートに触れたり、創作することのできる場所・機会の創出」が最も多く、続いて、「文化芸術・音楽・商店街などササハタハツの多様な魅力の情報発信」、「歴史や文化の魅力を伝え、次世代に継承する活動の展開」、「クリエイターの活躍を支える場づくり」の順となりました。

自由記述形式で得られた回答※：（意見総数 30 件）

※意見を分類し、件数順に並べた結果です。意見は原文ではなく概要を記載し、重複した内容は一つにまとめています。また、各テーマの主旨に直接関係しない意見については省略しています。

1. 発信・場づくり（11 件）

- 住民が文化を発信できる場づくり
 - ササハタハツ地域の文化芸術・音楽・商店街など、多様な魅力を発信する取り組み。楽器や音楽に気軽に触れられる機会を設けてほしい
 - 文化・芸術に関するチケットの金額が高い。年に数回は誰でも無料で参加できる場を設けてほしい
 - 文化の必要性を感じにくい人にも関心を持ってもらえるような場づくりを行ってほしい
 - 図書館を活用した場所の創造
 - ホールをつくってほしい
 - 新国立劇場の区民割の充実など、区民が良質な文化やアートに触れる機会を増やしてほしい。新国立劇場の区民割の充実など
 - オペラシティで完結せず、周辺にもアート関連の場を設けてほしい
 - 興味のない人でも街なかでアートを身近に感じられるような、小規模でも日常に溶け込むアートの取り組み（例：大地の芸術祭のようなもの）
 - 障害者アートを通年で展示できる場所を設けてほしい
-

2. 歴史（2 件）

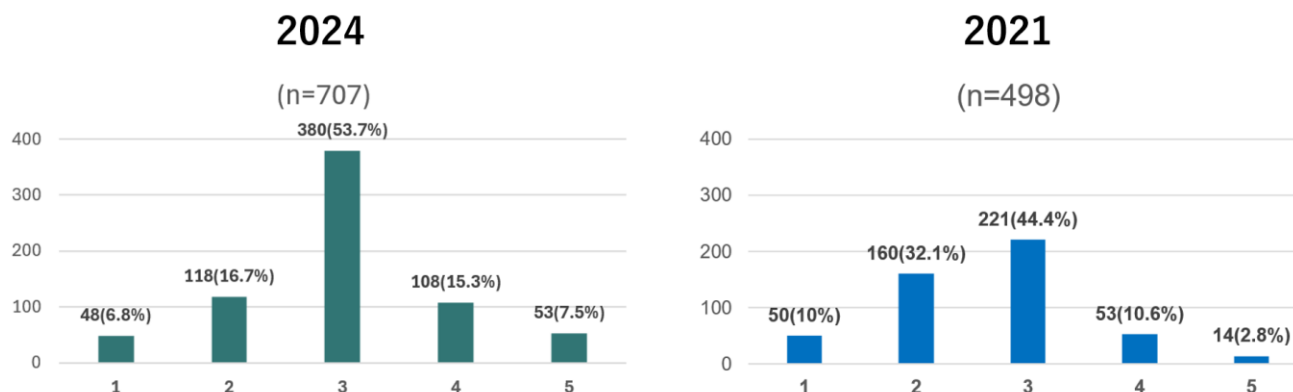
- 老朽化した歴史的案内表示の再整備と、インターネットや SNS との連携、マップ化を行うことで、地域の魅力を高めていくべき
 - 古い建物の保全
-

3. その他（8 件）

- 現状のままで問題ない
- 今のままの素朴な住宅街の雰囲気を持続してほしい。イベント中心のまちづくりには賛同できない
- 新たな取り組みよりも、ササハタハツの商店街を地域文化として継承していくことが重要
- すでにオペラシティや緑道といった有用な施設がある
- クリエイターは不要。産学連携で実施すればよい
- アートや文化には一定の質が必要であり、レベルの担保が重要。地域で学芸会的な取り組みを行う必要はない

Q-9-(8-1) テーマ7：仕事 "企業や多様な仕事の機会創出を支える" の現状の総合的な満足度について、1つ選択してください。

707件の回答



※回答選択肢は、5が最も満足度が高く、1が最も低い（不満）という5段階評価となっています。

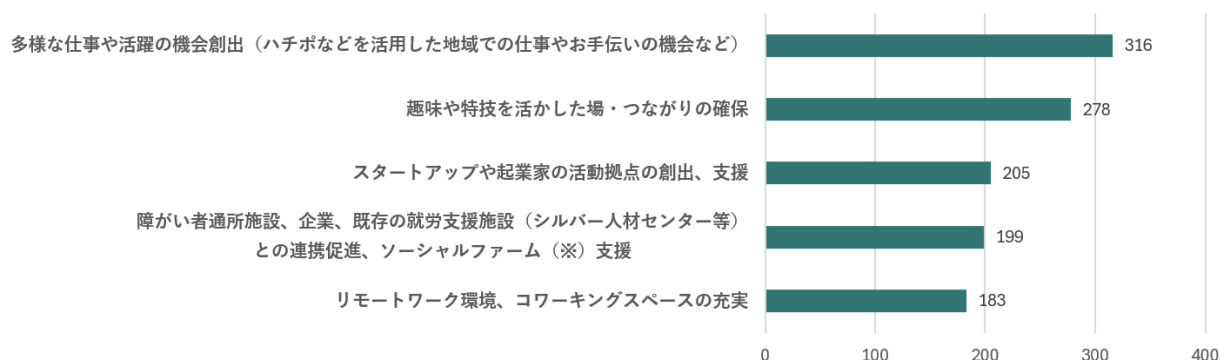
（解説）

- 2021年のアンケートと比べ、4の割合が増加し2の割合が減少して逆転する結果となりました。

Q-9-(8-2) こんな取り組みがあると良いと考えられるものをお選びください(複数回答可)

707件の回答

選択肢で得られた回答：



※「ソーシャルファーム」とは、自律的な経済活動を行いながら、就労に困難を抱える方が、必要なサポートを受け、他の従業員と共に働いている社会的企業のこと。（出典：東京都「都民の就労の支援に係る施策の推進とソーシャルファームの創設の促進に関する条例」）

（解説）

- 「多様な仕事や活躍の機会創出（ハチポなどを活用した地域での仕事やお手伝いの機会など）」が最も多く、続いて、「趣味や特技を活かした場・つながりの確保」、「スタートアップや起業家の活動拠点の創出、支援」、「障がい者通所施設、企業、既存の就労支援施設（シルバー人材センター等）との連携促進、ソーシャルファーム（※）支援」、「リモートワーク環境、コワーキングスペースの充実」の順となりました。

自由記述形式で得られた回答※：（意見総数 14 件）

※意見を分類し、件数順に並べた結果です。意見は原文ではなく概要を記載し、重複した内容は一つにまとめています。また、各テーマの主旨に直接関係しない意見については省略しています。

1. 人への支援（3件）

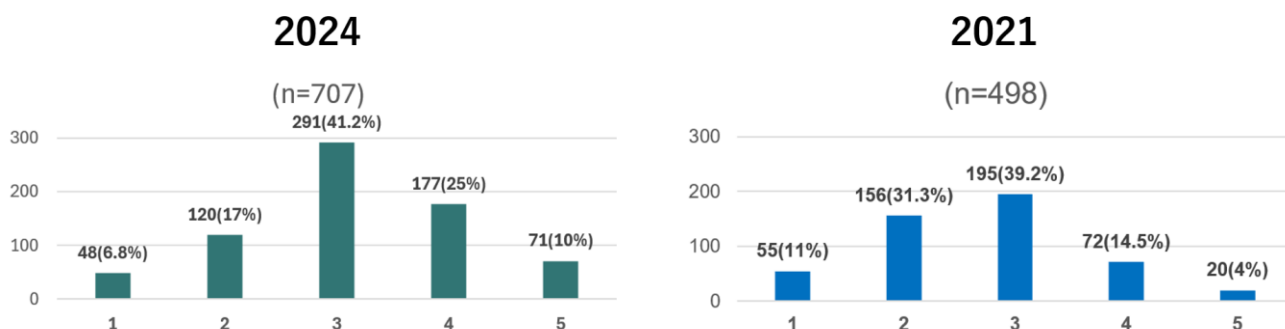
- 渋谷ならではの強みを活かし、最先端の IT が学べるリスキリングスクールの設置
 - 副業を希望する人への支援の充実
 - PTA 活動を支えるため、地域の OB などによる手伝いの仕組みを組織化し、謝礼を含めた人材活用を検討すべき
-

2. その他（4件）

- 起業家支援よりも、まず生活に困っている人への支援を優先すべき
- 小学校中学校の支援級情緒級の常設
- 安価な屋内施設の提供
- グループホームの整備

Q-9-(9-1) テーマ8：治安・防災 "日々の暮らしの安全を確保し、非日常時にも支え合えるまちをつくる"の現状の総合的な満足度について、1つ選択してください。

707件の回答



※回答選択肢は、5が最も満足度が高く、1が最も低い（不満）という5段階評価となっています。

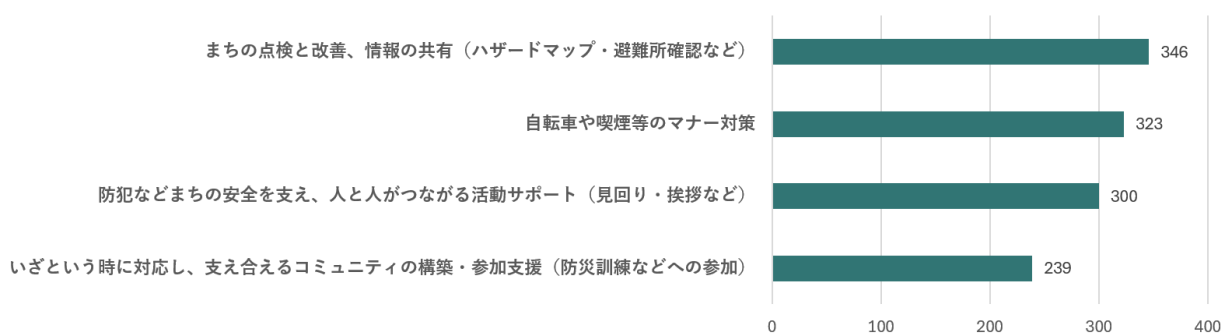
（解説）

- 2021年のアンケートと比べ、4の割合が増加し2の割合が減少して逆転する結果となりました。
- また2021年と比べ、5が増え1が減り、5と1の割合も逆転しました。

Q-9-(9-2) こんな取り組みがあると良いと考えられるものをお選びください(複数回答可)

707件の回答

選択肢で得られた回答：



（解説）

- 「まちの点検と改善、情報の共有（ハザードマップ・避難所確認など）」が最も多く、続いて、「自転車や喫煙等のマナー対策」、「防犯などまちの安全を支え、人と人がつながる活動サポート（見回り・挨拶など）」、「いざという時に対応し、支え合えるコミュニティの構築・参加支援（防災訓練などへの参加）」の順となりました。

自由記述形式で得られた回答※：（意見総数 34 件）

※意見を分類し、件数順に並べた結果です。意見は原文ではなく概要を記載し、重複した内容は一つにまとめています。また、各テーマの主旨に直接関係しない意見については省略しています。

1. マナー啓発、取締り（10件）

- 自転車や喫煙のマナー対策を強化し、まちの安全を支える活動（見回りや挨拶など）をサポートする。外国の方（旅行者を含む）への周知も含めるべき
 - 喫煙スペースを作ることで喫煙マナーの促進に繋げる
 - 歩きタバコや路上喫煙の取締り
 - 特に夜間などの外国人観光客を含む喫煙マナー啓発
 - 犬の糞尿に関するマナー啓蒙活動を行い、街の清潔さを保つ努力が必要
 - マナーの悪い電動キックボード利用者への対策や規制
 - 交通安全の徹底と取締り
 - 幡ヶ谷駅周辺の治安が低下している。駅周りの設備改善や風俗店の規制など厳しくしてほしい
 - 住宅地にあるゲストハウスで騒ぐ宿泊客の取締り強化
-

2. 設備（6件）

- 避難所の充実、仮設トイレや水場などの確保
 - 防災設備の充実
 - 防犯カメラの積極的多数設置
 - 緑道への防犯カメラの設置
 - 街路灯を増やして明るく安全な場所に
 - 特に緑道などへの街路灯の増加
-

3. イベント（2件）

- 防災キャラバンと連動し、楽しみながら地域の安全を確認できる「まち探検+防災点検」イベントの開催が望まれる。特に小学生の保護者の防災意識が高まっている
 - 参加したくなるような防犯訓練
-

4. 日常のつながり（2件）

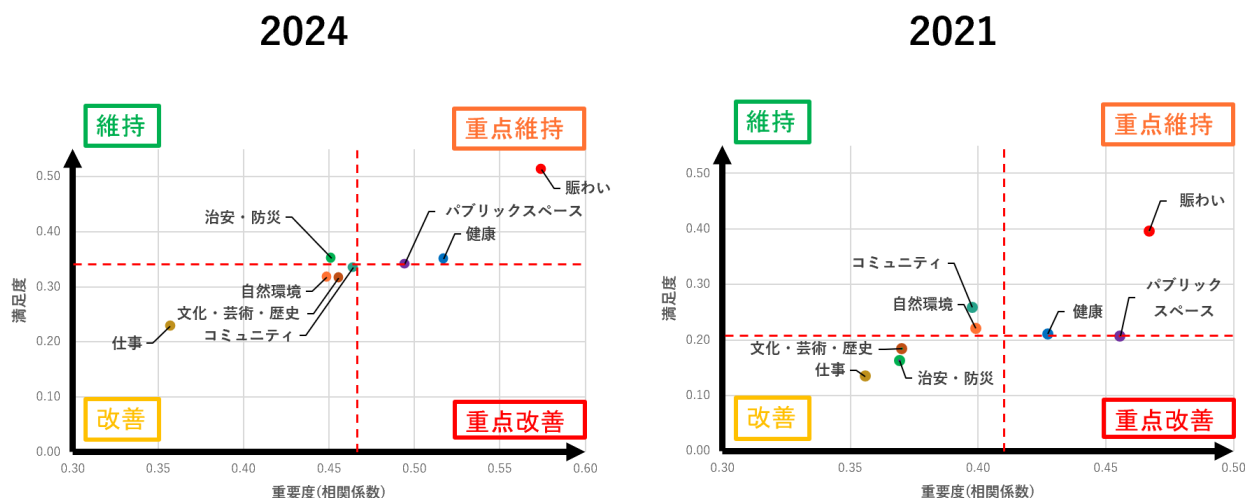
- 防犯・防災のため、プライバシーを尊重しつつ住民同士があいさつや声かけを通じて顔見知りになる関係づくりが必要
 - 住民による住民のための町会による活動の充実、行政に対するリスペクトを
-

5. その他（12件）

- 現状で十分
- 住宅街をお散歩マップに載せることに反対
- 消防学校で行っている活動の充実
- バイクは災害時にも役に立つため、地域内にオートバイ用の駐輪場を確保する必要がある
- 民泊について区としての方針を説明する機会を設けてほしい

- 既存の回覧板だけでなく、アプリで配信するなどデジタル施策の強化
- カラス対策をしてほしい
- 防災は重要
- 公共の駐輪場が足りていない
- 事件化していなくても、注意した方が良いことをリアルタイムに知れる仕組みがほしい
- ペットボトルのお茶やコーヒーを備蓄し、賞味期限が近づいたらイベントで提供する「ドリンクローリングストック」を導入し、防災と食品ロス対策を両立すべき

< まちの総合的な満足度とテーマ1～8の満足度による、満足度分析 >



2024年アンケート結果

	コミュニティ	健康	パブリックスペース	賑わい	自然環境	文化・芸術・歴史	仕事	治安・防災	総合的な満足度
満足度	0.33	0.35	0.34	0.51	0.32	0.32	0.23	0.35	0.56
重要度	0.46	0.52	0.49	0.57	0.45	0.46	0.36	0.45	1.00

2021年アンケート結果

	コミュニティ	健康	パブリックスペース	賑わい	自然環境	文化・芸術・歴史	仕事	治安・防災	総合的な満足度
満足度	0.26	0.21	0.21	0.40	0.22	0.18	0.13	0.16	0.53
重要度	0.40	0.43	0.46	0.47	0.40	0.37	0.36	0.37	1.00

(解説)

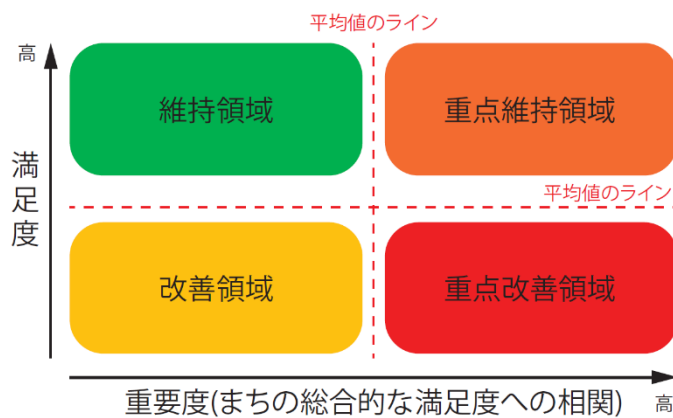
- 「コミュニティ」、「自然環境」の満足度が他テーマと比べて相対的に減少した結果、2021年では「維持領域」に位置していましたが、2024年では「改善領域」に変化しました。このことから、これらの2テーマには改善の余地があり、今後の向上が引き続き求められると考えられます。
- 「治安・防災」の満足度が相対的に大幅に上昇した結果、2021年では「改善領域」に位置していましたが、2024年では「維持領域」に変化しました。
- 「健康」、「文化・芸術・歴史」の重要度が相対的に大幅に上昇しましたが、領域に変化はありませんでした。
- 「賑わい」、「パブリックスペース」、「仕事」、「マネジメント」(Q-21の回答が該当)についても、領域に変化は見られませんでした。

(グラフの見方)

このグラフは、ビジョンのテーマ1～8に関する満足度と重要度（相関係数）を示しています。

- 満足度：縦軸（Y）の値で、5段階評価において4または5を選択した回答者の割合を示します。値が大きいほど、そのテーマへの満足度が高いことを意味します。これは Q-9 の回答を基にしています。
- 重要度（相関係数）：横軸（X）の値で、各「テーマの満足度」と「まちの総合的な満足度」との相関関係を示す指標です。値が大きいほど、そのテーマが総合満足度に与える影響が大きいことを示します。

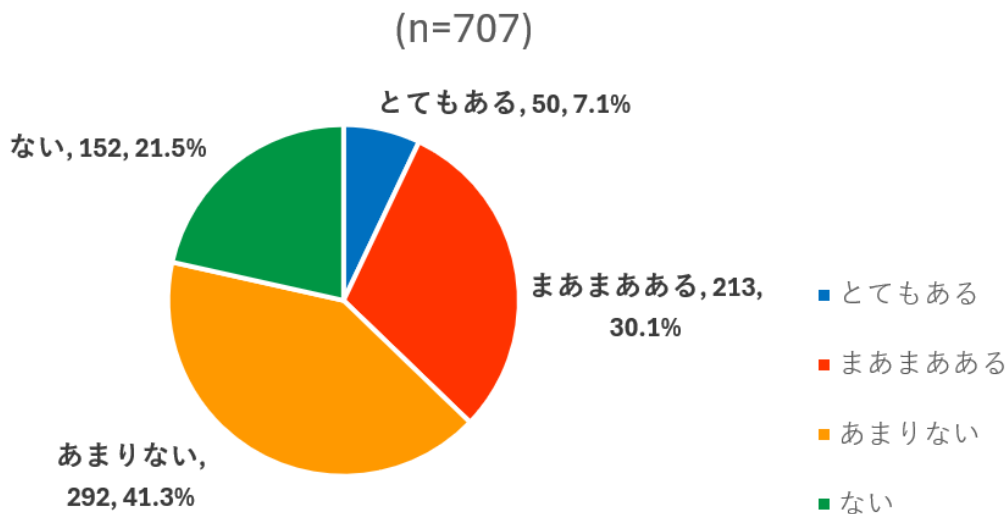
グラフ上で、縦軸と横軸に平均値ライン（赤い点線）を設定すると、グラフを以下の4つの領域に分割できます。これにより、各テーマの値（点またはプロット）を4つの領域のいずれかに位置づけることが可能となります。



重点維持領域	「テーマの満足度」と「まちの総合的な満足度」への影響がともに高く、維持・強化を図る領域
維持領域	「テーマの満足度」は高いが、「まちの総合的な満足度」への相関が低い（影響が小さい）ため、現状維持する領域
重点改善領域	「テーマの満足度」が低い、「まちの総合的な満足度」への相関が高い（影響が大きい）ため、重点的に改善すべき領域
改善領域	「テーマの満足度」が低く、「まちの総合的な満足度」への相関も低い（影響が小さい）ため、重点改善領域より優先度が低い領域

Q-12 ササハタハツエリアにおいて、地域の方と交流する機会がありますか。

707 件の回答



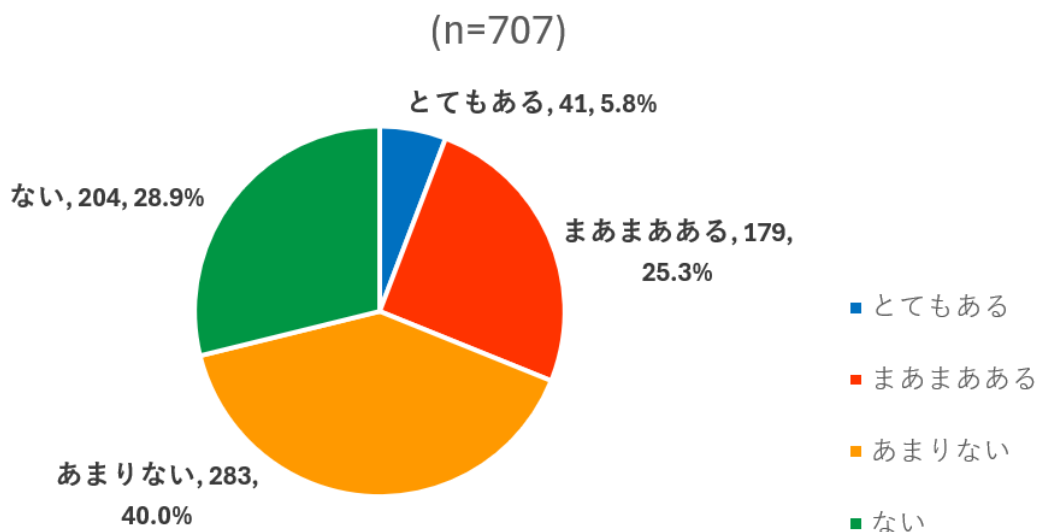
(解説)

- 「とてもある」、「まあまあある」の回答割合の合計は約 37%となりました。

Q-13 ササハタハツエリアにおいて、あなたと違う世代の方と交流する機会がありますか。

(グループ活動等のほか、会った時に話をするなども含みます。)

707 件の回答

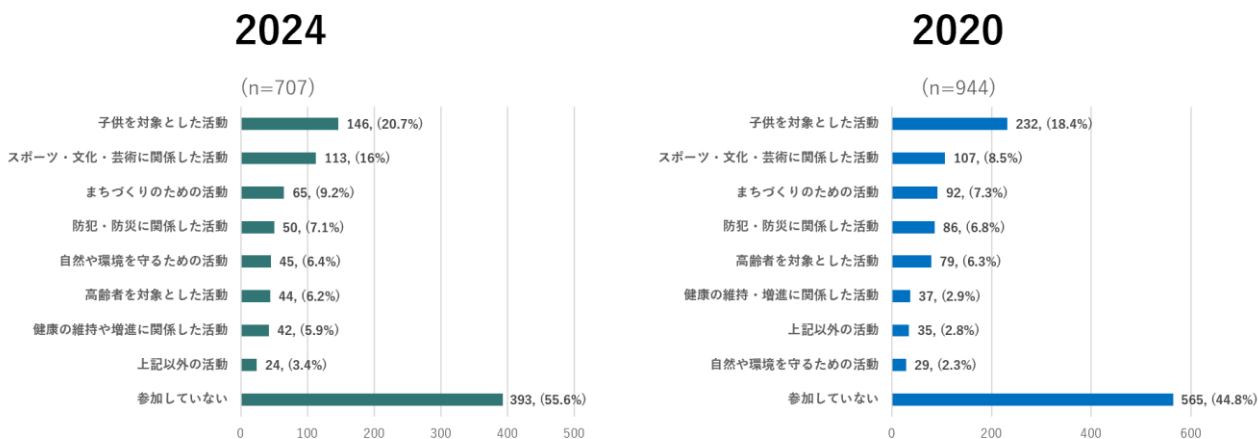


(解説)

- 「とてもある」、「まあまあある」の回答割合の合計は約 31%となりました。

Q-14 ササハタハツエリアにおいて、地域の活動や趣味のグループへの参加状況について教えてください。参加している場合はどのような活動内容ですか。参加していない場合は、「参加していない」をお選びください。（複数回答可）

707 件の回答

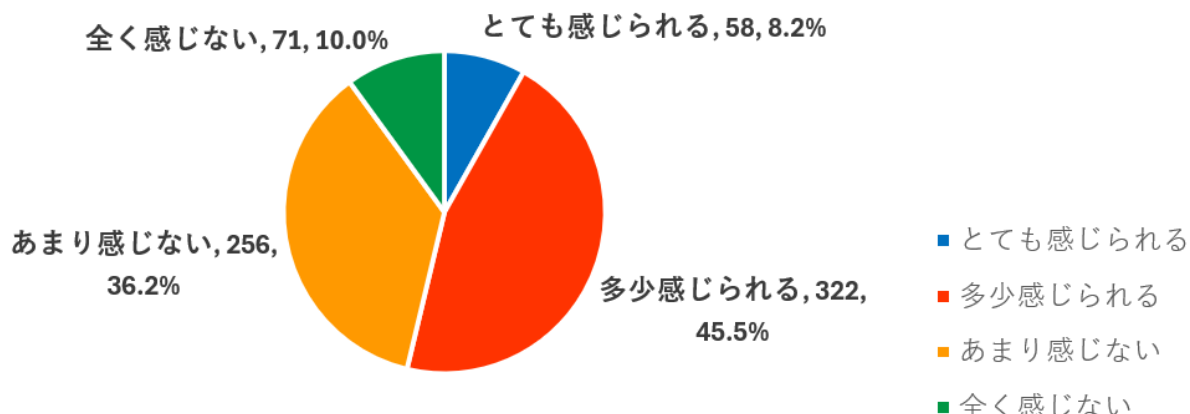


(解説)

- 2020年のアンケートと概ね同様の傾向が見られましたが、「自然や環境を守るための活動」は2020年から2024年には3つ順位を上げて5位に上昇しました。
- 「子供を対象とした活動」が最も高くなりました。

Q-15 地域の方による自発的な取り組みが生まれていると感じられますか。

707 件の回答



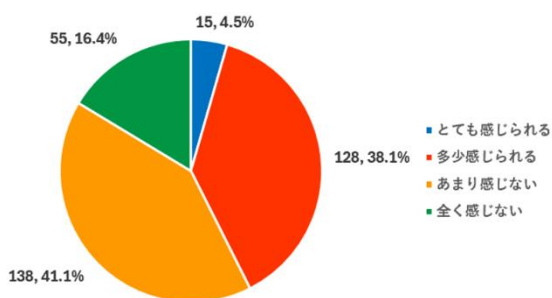
(解説)

- 「とても感じられる」、「多少感じられる」の回答割合の合計は約 54%となりました。

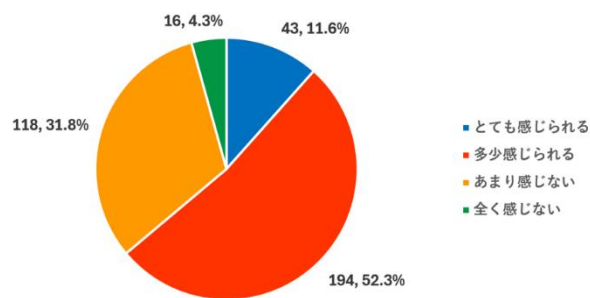
<クロス集計による分析>

(Q-15 の設問を、まちラボや関連の活動を知らない方と知っている方に分けて比較)

Q18で、まちラボやその活動を
どれも知らないと回答した方(n=336件の回答)



Q18で、まちラボやその活動を
知っている方(n=371件の回答)



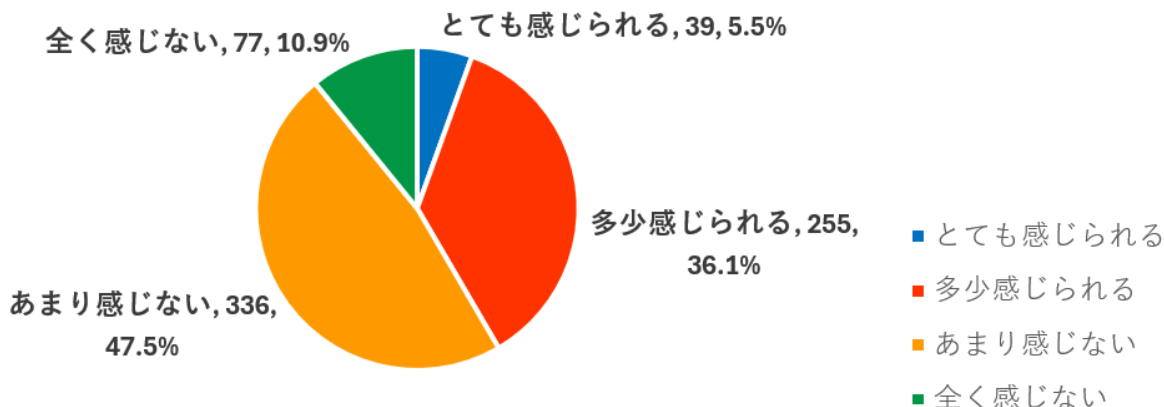
(解説)

- 地域の方による自発的な取り組みが生まれていると感じている方について、Q-18 でまちラボやその活動をどれも知らないと回答した方々と比べ、知っていると回答した方々は 21.3 ポイント高い結果となりました。(「とても感じられる」、「多少感じられる」の合計値が、42.6%から 63.9%へと 21.3%上昇しました。)

Q-16 持続可能（※）な取り組みが生まれていると感じられますか。

※「持続可能」とは、環境との共生、災害や非日常時への対応など、様々な変化に対応し活動を続けられることを指します。

707 件の回答



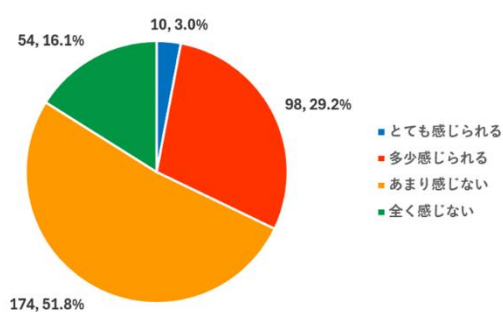
(解説)

「ととても感じられる」、「多少感じられる」、の合計が約 42%となりました。

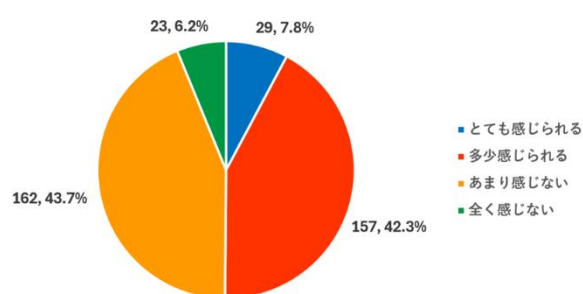
<クロス集計による分析>

(Q-16 の設問を、まちラボや関連の活動を知らない方と知っている方に分けて比較)

Q18で、まちラボやその活動をどれも知らないと回答した方(n=336件の回答)



Q18で、まちラボやその活動を知っている
と回答した方(n=371件の回答)



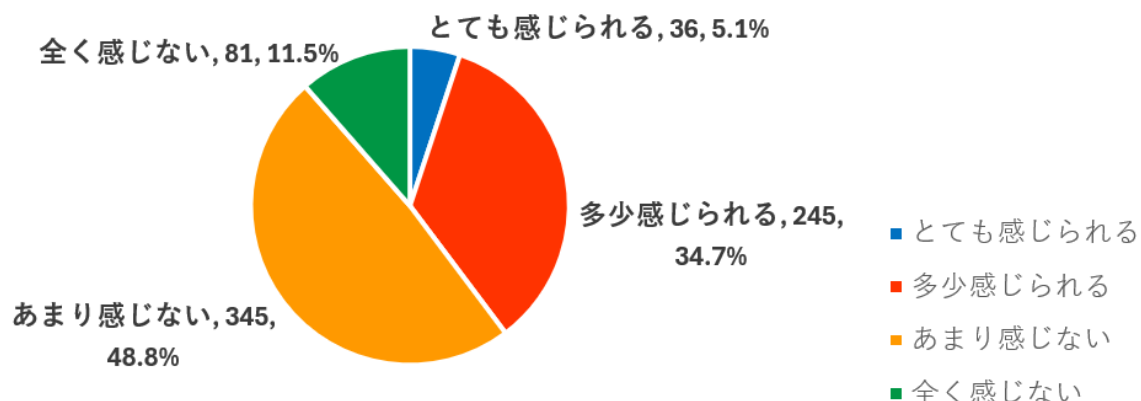
(解説)

- Q-18 でまちラボやその活動をどれも知らないと回答した方々と比べ、知っていると回答した方々は 17.9 ポイント高い結果となりました。（「ととても感じられる」、「多少感じられる」の合計値が、32.2%から 50.1%へと 17.9%上昇しました。）

Q-17 インクルーシブ（※）な取り組みが生まれていると感じられますか。

※「インクルーシブ」とは、年齢や性別、身体機能などに関係なく、誰もがいきいきと暮らしやすい生活ができることを指します。

707 件の回答



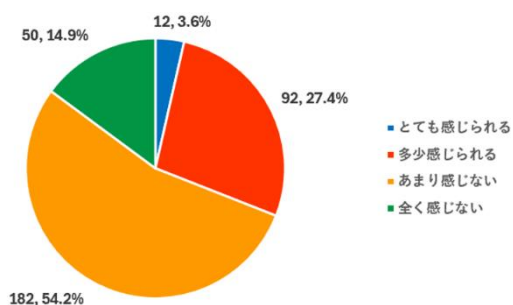
（解説）

「とても感じられる」、「多少感じられる」、の合計が約 40%となりました。

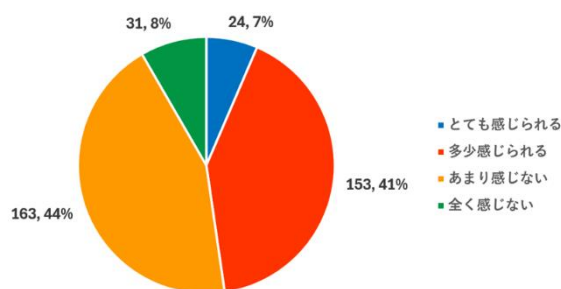
<クロス集計による分析>

（Q-17 の設問を、まちラボや関連の活動を知らない方と知っている方に分けて比較）

Q18で、まちラボやその活動をどれも知らないと回答した方 (n=336件の回答)



Q18で、まちラボやその活動を知っている
と回答した方 (n=371件の回答)

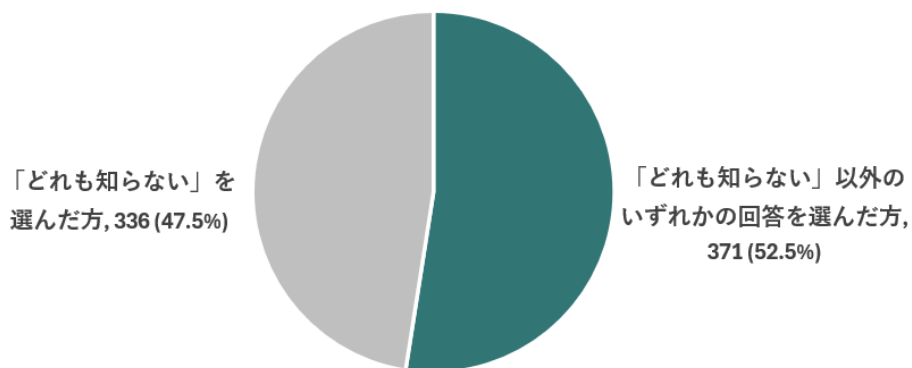
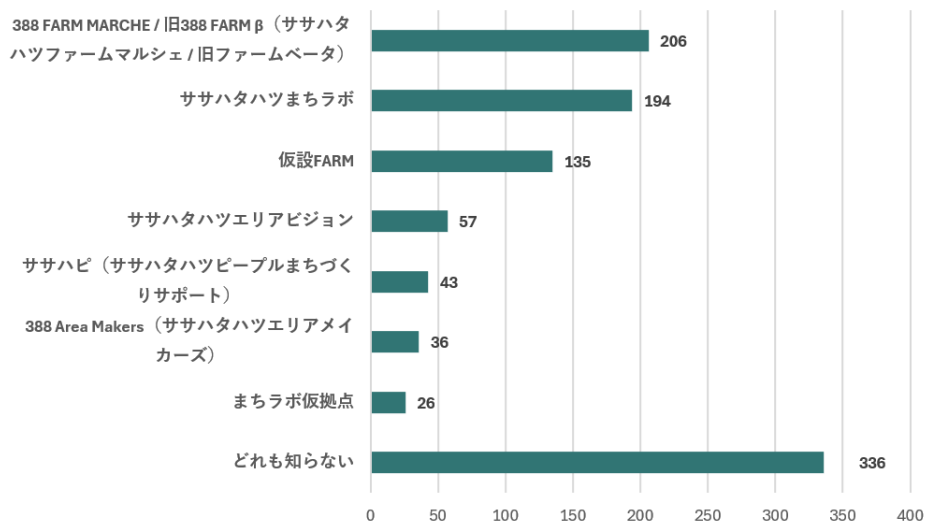


（解説）

- Q-18 でまちラボやその活動をどれも知らないと回答した方々と比べ、知っていると回答した方々は 17.0 ポイント高い結果となりました。（「とても感じられる」、「多少感じられる」の合計値が、31.0%から 48.0%へと 17.0%上昇しました。）

Q-18 ササハタハツまちラボやその活動について知っていますか。知っているものをお選びください。（複数回答可）

707 件の回答



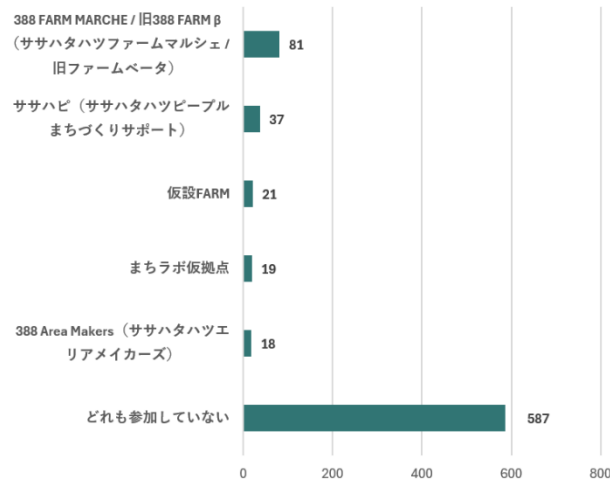
(解説)

- 回答者全体のうち、371件（約52%）がまちラボまたは関連の活動を知っている方でした。

Q-19 ササハタハツまちラボが関係する活動に参加したことがありますか。参加したことがあるものをお選びください。(複数回答可)

※参加は、イベント等の場所に「行った」ことや「利用した」ことも含みます。

707 件の回答

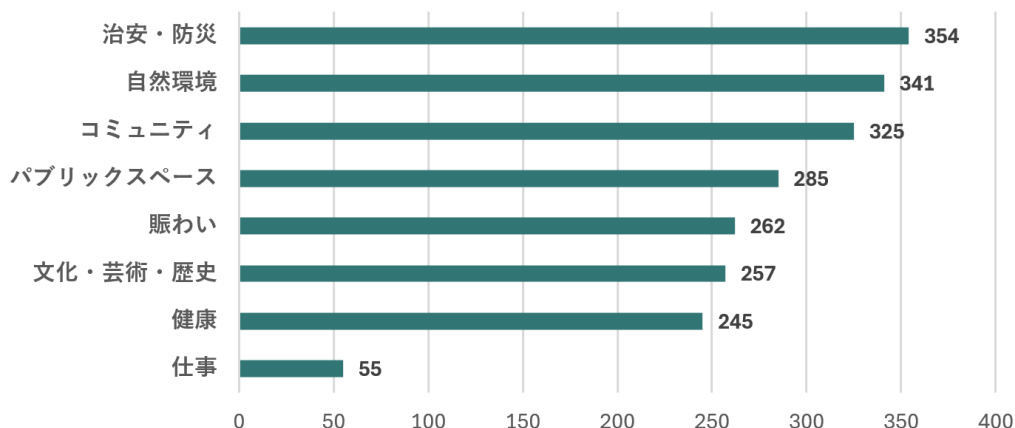


(解説)

- 「388 FARM MARCHE/ 旧 388 FARM β (ササハタハツファームマルシェ/ 旧ファームベータ)」が最も多く突出しており、続いて、「ササハビ (ササハタハツピープルまちづくりサポート)」、「仮設 FARM」、「まちラボ仮拠点」、「388 Area Makers (ササハタハツエリアメイカーズ)」の順となりました。

Q-20 ササハタハツまちラボに期待したいテーマを、上位3つ選択してください。

707件の回答



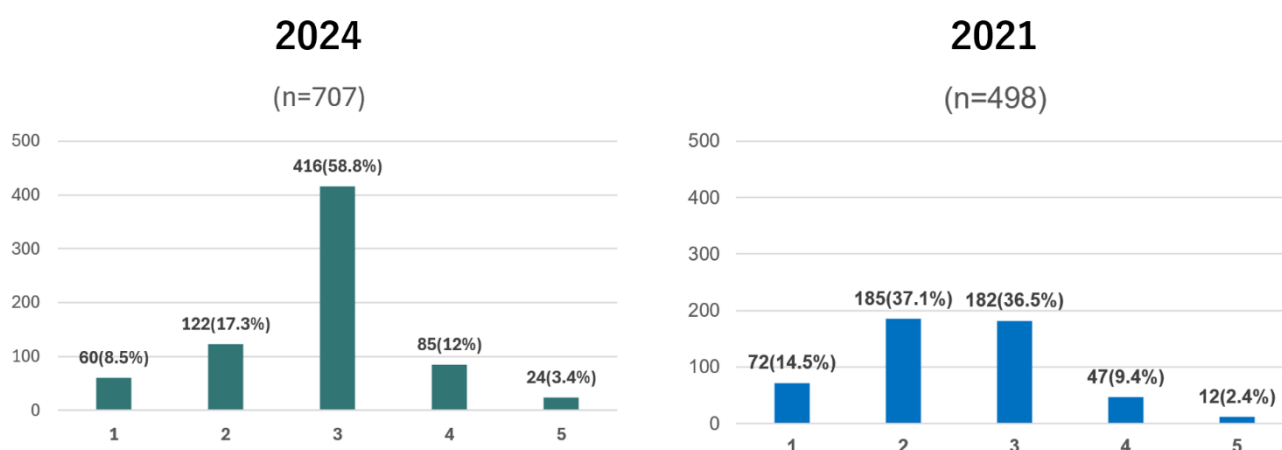
(解説)

- 「治安・防災」、「自然環境」、「コミュニティ」の順に上位3つとなりました。
- 上位3つからやや開いて「パブリックスペース」が4位となりました。
- 続いて「賑わい」、「文化・芸術・歴史」、「健康」の順に下位となり、「仕事」は最も低くなりました。

Q-21 「活動のサポート・エリアマネジメント」について、現状の満足度を1つ選択してください。

※「エリアマネジメント」とは、活動立ち上げ支援、各活動の担い手間や行政機関、企業との連携調整などによってエリア全体で戦略的なまちづくりの展開を図ることを指します。

707件の回答



(解説)

- 回答選択肢は、5が最も満足度が高く、1が最も低い(不満)という5段階評価となっています。
- 2021年のアンケートと比べ、2の割合が大きく減少、3の割合が大きく増加しました。
- 全体の満足度平均値は2021年の2.5から2024年には2.8へと上昇しました。

Q-22 Q-21 について、どんな活動のサポート・エリアマネジメントがあるとよいと考えられますか。(自由記述) ※ (意見総数 138 件)

※意見を分類し、件数順に並べた結果です。意見は原文ではなく概要を記載し、重複した内容は一つにまとめています。また、各テーマの主旨に直接関係しない意見については省略しています。

(活動に関する意見について)

1. 地域の活性化・住民参加促進 (18 件)

- ・ 商店街の活性化、空きスペース活用、デジタル化
- ・ 活動と地域住民がつながる機会の提供
- ・ 地域住民の活動参加促進
- ・ 商店街を盛り上げてほしい
- ・ 活動の周知・情報発信
- ・ 地域団体の法人化
- ・ 地元の活動をプラスアルファで支援
- ・ 個人の企業支援・コワーキングスペース提供
- ・ 助成金アドバイスや企業連携のナビゲート
- ・ 若者や高齢者が交流できる場
- ・ イベント開催 (フリーマーケットや賑わいづくりなど)
- ・ 地域住民の関わりを増やす
- ・ 地域の小規模イベントサポート
- ・ 地域での野外映画開催
- ・ オペラシティや新国立劇場とのコラボレーション
- ・ 活動を始めたい時の相談窓口設置
- ・ 参加ハードルの低いイベントサポート

2. 環境整備と美化 (14 件)

- ・ ゴミの清掃活動、美化運動
 - ・ 落ち葉の堆肥化推進
 - ・ 緑道の整備・保存・活用
 - ・ 地域の自然保護
 - ・ 笹塚駅周辺や道路の整備
 - ・ 公共的な場所の開放
 - ・ 公園や住民に優しい環境づくり
 - ・ ゴミのない街、禁煙の徹底
 - ・ 壊れた塀などの点検・修繕
 - ・ 避難所備品整備・避難マニュアル作成
 - ・ 自然と触れ合うプログラム提供
 - ・ ドリンクロス削減
-

3. 防犯・治安改善（9件）

- ・ 防犯カメラ設置、地域巡回
 - ・ 治安維持や改善の活動
 - ・ 暗い夜道を安全にする街づくり
 - ・ 治安を良くして健康づくりができる場所を増やす
 - ・ 若い世代を対象とした防犯・防災活動
-

4. 若者・子どもへの支援（8件）

- ・ 子どもの遊び場や教育コミュニティの提供
 - ・ 子育て家庭の孤立解消を目的とした交流の場
 - ・ 若者の出店支援、住みやすい環境整備
 - ・ 小中学生の窮屈さ解消
 - ・ 若い世代へのサポート強化
-

5. 高齢者・障がい者支援（6件）

- ・ 高齢者の福祉活動・見守り
 - ・ 高齢者が憩える森や集いの場
 - ・ 障がい者に優しい街づくり
-

6. 芸術・文化活動の支援（5件）

- ・ 美術館巡りや芸術支援
 - ・ 芸術や音楽活動の促進
 - ・ 地域イベントでのクリエイター支援
-

7. その他（3件）

- ・ 幡ヶ谷に銀行設置希望
- ・ 地元住民希望優先の活動
- ・ 旅行者のマナー啓発

（エリアマネジメントに関する意見について）

1. 地域住民の意見反映（6件）

- ・ 渋谷区民の意見を十分に反映しないアンケートへの不満
 - ・ 住民を無視した計画や高額な開発への反対
 - ・ 自然環境を守ることを望む意見（緑道や木々の維持管理）
 - ・ 行政主導ではなく住民主導の街づくりを希望
 - ・ ササハタハツエリアビジョンへの反対意見をまとめて相互理解を深める取り組みの必要性
 - ・ 住民との意見交換の場の設置
-

2. 地域連携と戦略強化（3件）

- 他地域の成功事例（下北沢線路街、学芸大学高架下）との比較
 - 初台エリアの戦略見直しと他地域との連携
 - エリアマネジメントの策定
-

3. 商店街と経済活性化（3件）

- 本町商店街の魅力向上
 - 西原エリアの中途半端さ解消
 - 商店街加入のハードルを下げる
-

4. 地域コミュニティの促進（3件）

- 住民がもっと集まり話し合う機会を設ける
 - いつでも参加できる環境づくり
 - 世代を超えたコミュニティの関心を高める
-

5. 企業と地域の協力（3件）

- 企業連携を進めつつ、地域住民の意見を優先
 - お祭りやイベントへの企業の人員協力
 - 不動産ディベロッパーとの連携による賑わい創出
-

6. その他（10件）

- 理想や楽しさだけでなく、現状と結果を見据えた活動を求める
- 自己PR的な催しや賑やかしだけの活動への反対
- 問題解決への具体的な提案を求める意見
- 空き地や都営住宅の未活用に対する疑問
- 公共の場・施設の老朽化対策とメンテナンスの重要性
- 388 ファームマルシェの質低下と訪問客減少への懸念
- 社会福祉色が濃すぎると若者世代に嫌煙されるため、バランスの取れた活動を望む
- 落ち着きのある、安心して暮らせる街づくり
- 賑わいだけでなく「心やさしい街」の実現を目指す
- アンケートや意見交換の場をもっと手軽に利用できる工夫

2. エリアビジョンレビュー検討会

2.1. 検討会について

ビジョンのレビューにあたり、ビジョン策定時に公募で選ばれた委員 8 名と学識経験者の委員 1 名とエリアビジョンレビュー検討会を行いました。2024 年のアンケート結果もふまえながら、ワークショップ形式でこれまでの 3 年間や今後のまちづくりについて意見交換を行い、ロードマップの更新に反映すべき事柄を話し合いました。

■エリアビジョンレビュー検討委員 名簿（敬称略）

氏名	関わりのあるエリア	職業
泉山 壘威	ササハタハツエリア	日本大学 准教授 都市戦術家 (学識経験者)
飯田 雅春	初台	ベーシスト・音楽家
梅岡 恒治	初台	建築設計事務所主宰
木田 恵子	初台	会社員
近藤 翔平	笹塚	会社員
財津 宣史	笹塚、幡ヶ谷	会社経営
田口 紀子	笹塚、幡ヶ谷、初台、本町	会社員
積田 綾子	幡ヶ谷、本町、初台	小児科医・ リハビリテーション科医
森下 利典	幡ヶ谷、笹塚、西原	三つの居場所主宰 版画家

■2024 年度検討会日程

検討会	日程	場所
第 1 回	2024 年 10 月 2 日（水）18:00-19:00	オンライン開催
第 2 回	2025 年 1 月 24 日（金）18:30-20:30	笹塚駅前区民施設

2.2. 第1回エリアビジョンレビュー検討会

(1) 内容

【日時】2024年10月2日（水）18：00～19：00

【場所】オンライン開催

■当日プログラム

- 1 事務局挨拶と紹介
- 2 エリアビジョンレビュー検討会の立ち上げについて
- 3 アイスブレイク（近況報告）
- 4 まちラボの3年間の活動の振り返りについて
- 5 エリアビジョンレビューの今後の進め方について
- 6 意見交換

(2) 当日挙げられた意見

エリアビジョンのレビューに向けた意見として以下が挙げられました。

ビジョンの共通原則

- 最初は理解しづらかった共通原則が、今では当たり前の認識になった。

ビジョンのテーマ「治安・防災」の取り組み

- テーマ「治安・防災」について、防災拠点委員会の立ち上げなどを行い、地域で有事の際にどう対応するか議論をするようになってきている。

次の3年間にに向けたロードマップの具体性

- 現在の活動の進展は理解されているが、次の3年間にに向けてロードマップをより具体的にしないとレビューが難しくなる可能性がある。

緑道・水道道路の進行とエリアビジョンの形成

- 緑道や水道道路の開発が今後進行する段階にあり、これらがうまくリンクしながらエリアビジョンとしての形をどう作り上げていくかが重要だと思う。
- 緑道の工事や水道道路の会議が始まり、地元住民の関わりを期待している。

エリアビジョンの具体化と定量的目標

- 今後のビジョンの具現化において、具体的な数値目標や定量的な要素があると効果的ではないか。目標設定がなかなか難しいこともわかる。

ウェルネスに関する意見

- スポーツ系（健康）の観点はまだビジョンの中で弱いのではないかと。ウェルネスの方が、インクルージョンよりも特にシニア層においては自分ごとになる可能性がある。
- 都会においてウェルネスが社会において重要であり、身体的・精神的健康を支えるコミュニケーションの場が重要である。

エリアビジョンと住民の関与

- アンケートに回答する人々は熱心な参加者だが、それ以外のサイレントマジョリティや無関心な人々が置き去りにされることへの懸念を感じた。
- まちづくりにおいて、ビジョンが先にあると賛同者がついてくるのか、それとも人々が先に集まり、そこからビジョンが形作られるのかという疑問を持った。
- 緑道や水道道路が住まいと近いので何かできたり、話し合えたりすると良い。

2.3. 第2回エリアビジョンレビュー検討会

(1) 内容

【日時】2025年1月24日（金）18：30～20：30

【場所】笹塚駅前区民施設

■当日プログラム

- 1 あいさつ
- 2 エリアビジョンレビュー検討会について
- 3 第一部
 - ① インプット
 - これまでのまちラボの活動
 - アンケート結果報告
 - ② アウトプット
 - まちラボの活動やアンケート結果への意見を共有、現状の理解を深める
 - ③ 講評（泉山委員）
- 4 第二部
 - ① インプット
 - ロードマップの検証について説明
 - ② アウトプット
 - ロードマップ更新案へ向けて意見を描き込む
 - ③ 講評（泉山委員）
- 5 終わりに

(2) 当日挙げられた意見

2024年のアンケート結果や第1回検討会の意見をふまえながら、ワークショップ形式でこれまでの3年間や今後のまちづくりについて意見交換を行い、ロードマップの更新に反映すべき事柄として以下が挙げられました。

パブリックスペースの機能強化

- パブリックスペースの利活用を促進して、例えば若い世代やリモートワーカーを呼び込むではどうか。
- パブリックスペースにまつわる清掃などの小規模な仕事を多様な人々のシビックプライドや孤独解消などのやり甲斐につなげることも考えられる。

官民のまちづくりと連携したエリアマネジメント

- 中村屋工場跡地再開発、幡ヶ谷社会教育館、都営住宅の再編などの官民のまちづくりの動きと連携してまちのコミュニティづくりを図ることが求められている。

緑道再整備と水道道路沿道エリアまちづくりに注力

- 緑道と水道道路をまちの軸として、意義の多い成果・価値提供につなげていく必要があるのではないかと。

包摂（インクルーシブ）の強化と地域の多様性の尊重

- ビジョンの3原則のうち、「包摂」の考えをより重視し、多様な人々、多世代を受け入れるまちとなるよう、場やつながりづくりに取り組むことが大事である。

まちラボの認知度向上と役割の明確化

- まちラボの目的や活動内容を積極的に発信し、認知度の向上や渋谷区とは異なる役割の明確化を図っていけると良い。

3. ササハピプロジェクト紹介

3.1. ササハタハツピープルまちづくりサポート（ササハピ）事業とは

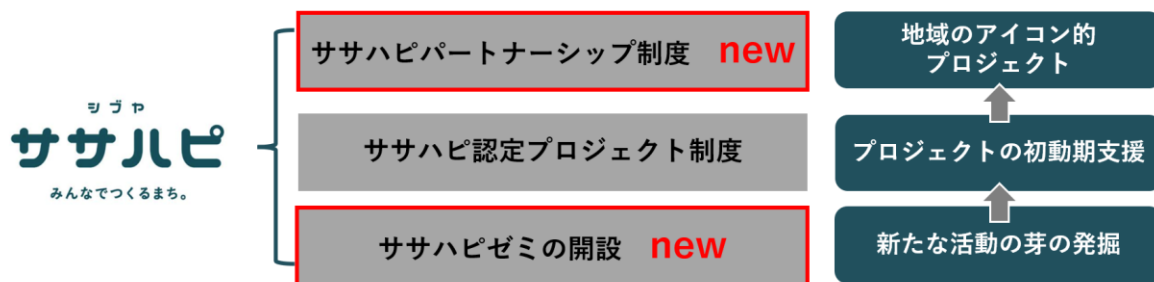
ササハタハツまちラボでは、ササハタハツエリアで活動する方々の主体的なプロジェクトを応援するササハピ（ササハタハツピープルまちづくりサポート）事業を行っています。令和2年度に制度を創設し、令和6年度時点で40を超えるプロジェクトへの支援を行ってきました。

また、令和6年度からは計3期以上ササハピ認定プロジェクトとして活動した団体を対象に、パートナー登録証の交付やイベント参加の機会提供などを行う「ササハピパートナーシッププロジェクト制度」、ササハタハツまちづくりに関心を持っている人や団体を対象に、有識者を交えたまちづくり活動に関する学びの場（ゼミ）を開設し、生活の質とまちの価値を高める新たなまちづくり活動の創出を目指す「ササハピゼミ」の制度を新たに創設し、様々な段階での地域活動の育成・支援・伴走を行い、市民共創活動のつながりを広げています。

ササハタハツピープルまちづくりサポート（ササハピ）事業の概要

ササハタハツピープルまちづくりサポート（ササハピ）事業

ササハピ事業を更に発展させるため、これまでの「認定制度」に加えて、令和6年度より、新たな仕組みを創設しました。



目指すゴール

「ササハピ」を介して生まれ・育ち・成熟したプロジェクトが、ササハタハツエリア内で行われる様々な地域活動とも連動し、相乗的に生活の質とまちの価値を高めている状態になることを目指します。

3.2. ササハピ認定プロジェクト一覧表（第1期～第4期）

これまでに以下のササハピ認定・登録プロジェクトが生まれました。

	プロジェクト名	第1期 (2020.11～2022.3)	第2期 (2022.6～2023.3)	第3期 (2023.6～2024.5)	第4期 (2024.6～2025.5)
1	インクルーシブ運動場	認定	認定	認定	パートナーシップ
2	Mamapura Kids&Baby	認定	認定	認定	パートナーシップ
3	つながる菜園	認定	認定	認定	パートナーシップ
4	北渋プロジェクト	認定	認定	認定	パートナーシップ
5	まち遺産探検隊	認定	認定	認定	パートナーシップ
6	ありがとうプロジェクト	—	認定	認定	認定
7	花コミュニティ	登録	認定	認定	認定
8	不動通り商店街「まちパスポート」	—	—	認定	認定
9	せせらぎ冒険遊びがやってくる！	—	—	認定	認定
10	CollaboX	—	—	認定	認定
11	しぶやのなかま	登録	認定		認定
12	「ちがいをちからに変える街」を体現したい！少数を大切にす夢の取り組み	—	—	—	認定
13	Tea Party	認定	認定	—	—
14	Dear Tree Project ～街路樹デジタルマップ～	—	認定	—	—
15	ササハタハツ CONNECT	登録	—	—	—
16	ササハタハツ新聞	認定	—	—	—
17	ササハピ★オモシロビト MAP	登録	—	—	—
18	388 まちの学童	登録	—	—	—
19	渋谷肥料	登録	—	—	—
20	地元ジム	登録	—	—	—

※登録：第1期のみ実施。プロジェクト内容、情報発信、周知に関する相談等が可能。

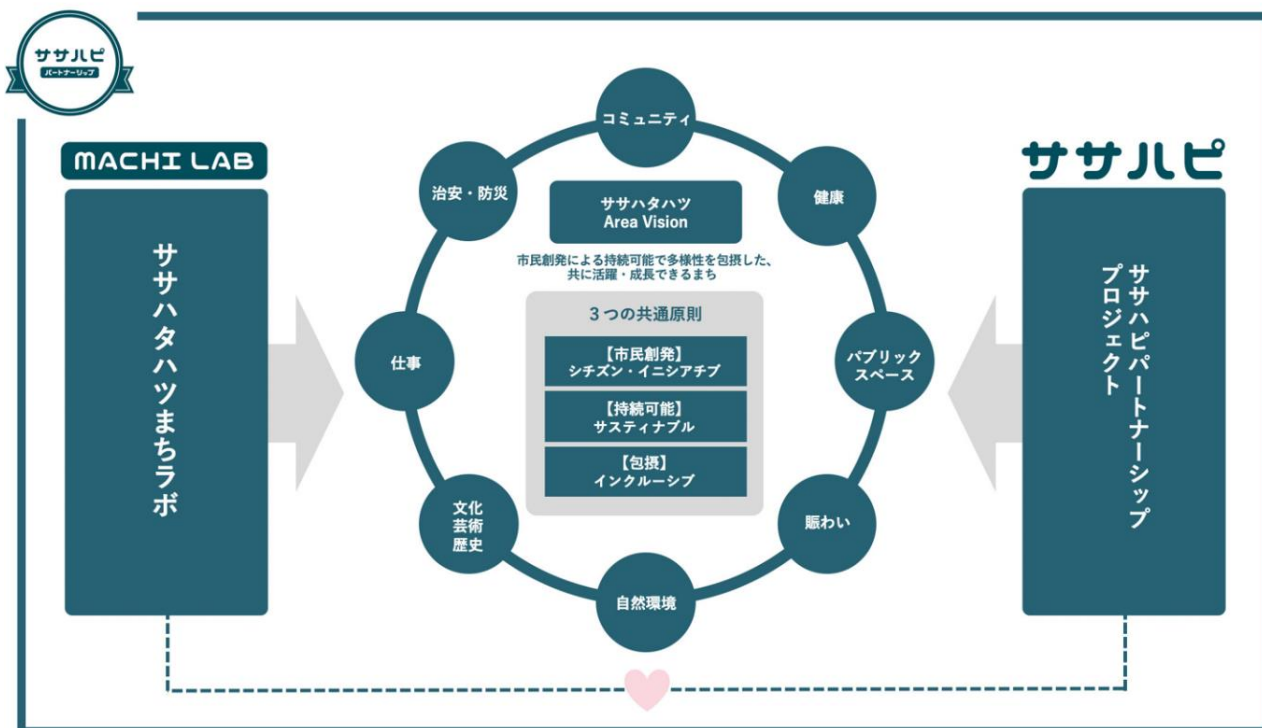
※認定：登録で受けられる支援のほか、金銭面での支援を受けることが可能。

※パートナーシップ：計3期以上認定されたプロジェクトを対象に、パートナー登録証の交付やイベント参加の機会が提供される。

3.3. ササハピパートナーシッププロジェクトの活動紹介

ササハピパートナーシップ制度とは

ササハピ認定プロジェクトとして計3期以上活動しその実績をまちラボが認めた団体とまちラボがササハピパートナーシップ協定を締結し、互いに協働して、ササハタハツエリアの暮らしの質及びまちの魅力の更なる向上に取り組むことを目指す制度です。





① インクルーシブ運動場



(プロジェクト概要)

“ちがいをちからに変える街。”20年後、渋谷を世界に誇れる街にしよう！そんなコンセプトで始まった渋谷の街づくりに魅了されて私たちは第1期（2020年）から“年齢、性別、障害、特性に関係なく誰でも楽しく運動できる運動場”をテーマとして活動をはじめました。

ササハタハツは渋谷の再開発でありながら、人も自然も、コミュニティも全てを育む FARM に生まれ変わるこれから大きく変わっていくエリア。こどもでも、障害があっても年老いてもずっと住みたいと思える、根っこからインクルーシブな街づくりにチャレンジできたら嬉しい。そんな想いを持った医療や、福祉、リハビリ、教育、地域や遊びの専門家も在籍し多彩なボランティアさんもみんなで協力して知恵を絞るのでいろんな課題にチャレンジしています。

現在は①多様な車椅子体験、②地域と企業をつなぐインクルーシブなプランター活動③ポニーライディング（ホーズバックライディング）、④誰でもできてしまう多彩な遊び。の4つの軸が活動の中心です。

今では企業さんからのご依頼や中野区、草加市や相模原市、茨城県付近など渋谷以外での活動も増えました。ササハタハツをホームにいろんなところでこの活動に参加してみたい、何かやってみてほしい。そんな方々は誰でも参加可能なプロジェクトです！

(ササハタハツエリアのまちづくりに貢献する点)

- ・思うように動けない人たちの障害や社会的課題などにはリハビリなどの社会資源が用いられるが、健全な心身を育むための活動や運動機会は限られるため、疾病率増加や二次障害に繋がる。
- ・インクルーシブ運動場は多職種で構成され、前述の課題解決のために協力し、自発的に活動している。
- ・まちラボ支援金に加え、クラウドファンディングなどで多くの人々の支持を集め活動資金を調達。車椅子でも使用できるプランター、アウトドアを諦めない車椅子などを購入し、普段動けない方々が運動や活動をできる環境を創出。
- ・今後はイベントベースでは啓蒙活動を、プランターを利用しながら常設の活動場所を設置し自然に3原則が育まれることを目指すことが可能。

② ママぶらキッズ&ベビー



(プロジェクト概要)

親子のためのフィットネスコミュニティ「Mamapura Kids & Baby (ママぶら キッズ&ベビー)」
"ママたちがぶらっと集まり、運動を通じてコミュニティが生まれる場所"ママとベビーの"健康"と
"笑顔"の輪を広げること、そして、子育て世代の横の繋がり、地域との繋がり、親子の繋がりを深
めることを目的に様々な活動に取り組んでいます。

【取り組み】

- ・産後ママの孤立化、産後鬱などを未然に防ぎ情報共有ができる場所
- ・地域コミュニティづくり、地域と子育て世代の連携できる場所
- ・子育て世代の日頃の居場所づくり
- ・親子の絆、健康維持などの場所
- ・家族で元気の身体を動かす場所など

社会や地域との繋がりを大切にし、子育てに関心がない方も子育て世代のご家族とつながりが
できることで、赤ちゃんや子供がより身近になり、地域全体で子育てできる地域作りを目指して
活動しています。

(ササハタハツエリアのまちづくりに貢献する点)

- ・子育て世代と地域との居場所を作ることでお互いの理解が深まり、子育て、高齢者福祉、社会的
少数者などを支え合う場や体制の構築をしていきたい。
- ・子育てに様々な人が関わることで、ママやパパは社会へと目を向けることができ社会復帰や、
新しいチャレンジへと目を向けることができ地域が活性化する。
- ・東京都渋谷区という大都会の中で、地方から引越ししてきた家族もいれば、転勤などで住んで
いる世帯も多い。そのような家庭事情で孤立しやすい特徴の地域で、多様性のある子育て支援
をしていきたい。
- ・室内に限らず、野外の広場や公園、区の施設などを存分に利用して、区内にはこんな施設もある
んだということを伝えていきたい。
- ・また、構えずにもっと気軽に運動を楽しめる場、子供だけではなくママもパパもが自分の健康に
目を向けれるようになるきっかけ作りをしていきたい。産後ママのケア、更年期のママも同じ
く、話す場だけではなく、誰でも気軽に少し体を動かしてリフレッシュできる場を増やしたい。



③ つながる菜園



(プロジェクト概要)

渋谷区立幡代小学校内にて「学校菜園」(幡代つながる菜園)を運営し、食と教育の相互的な関わりを学べる場、食を通じて自然界と生命のつながりを体験的に学べる場として学校に使ってもらっています。また、地域の保育園で年に数回菜園アドバイザーをしており、保育園から小学校へと菜園でつなぎ、入学後の安心に繋げています。

また、学校向かいの小さな公園内に「自主管理花壇」(つながるガーデン)を作り、地域の方々と一緒に季節のお花を植えて育てる活動をしています。

具体的な活動内容は、毎週1回小学校の休み時間に“菜園タイム”を設けており、子供たちと一緒に土づくり、種まきから収穫までを行い、収穫野菜は学習に使ったり、給食で全校児童に振舞われたり、学校で飼育しているウサギたちにお裾分けしたりしています。

また、毎月1回、公園でのお花の植え替え、種まきなどの花壇整備、作業後のお茶会“青空コーヒー”を行っています。どなたでも自由に参加できるため毎回色々な方に出会える楽しみがあります。

(ササハタハツエリアのまちづくりに貢献する点)

ササハタハツの緑道におけるテーマである「FARM」は農、農的な生活、育むという顔の見えるまちづくりがコンセプトになっていると思いますが、当プロジェクトの設立当初から目指す方向性は正に地域の中にある学校をハブにし、農(菜園活動、自主管理花壇運営における栽培活動)を活動ツールとし、その結果、多世代間の交流を生み出し、顔と顔の見える安心安全なまちづくり、です。

学校菜園活動から地域の公園での自主管理花壇活動に飛び出した活動は確実に地域に広がりを見せ、緑道からはみ出した公園での活動もまた緑道とは別の奥行きを出せています。

地域の人々の小さなつながり、地域で小さく開いていく活動の積み重ねのみ、しっかりと根を張った活動へと発展していけると考えるので、野菜や花の命の循環のように日々の活動を丁寧に積み重ねていくことが大切だと考えます。

地味な活動ではありますが、上記の理由からしっかりと「食べる、集う、遊ぶ、学ぶ」ができる居場所と実践の場を地域に作り根付かせたいと思います。

④ 北渋プロジェクト



(プロジェクト概要)

北渋プロジェクトは、この北渋エリアを、将来にわたり利便性だけではない居心地の良さの維持向上を考えていきたい。そのために地域の活動やコミュニティを強化し、このエリアの将来を担う若い人や子ども、来街者たちに魅力に感じてもらう必要があると考えています。

私たちはオペラシティ・新国立劇場の潜在的な魅力や発信する気質を活かし、音楽や芸術を中心とした、自己表現を行えるまち、ひいてはアーティストがやってくる・育つまちを目指します。人基点での文化の循環が地域に根付き、まちの魅力になる。私たちは、自己表現したい人と地域の方々をつなぎ、地域住民が関わり合いつづけられる持続的な取り組みを行っていきます。

今回のプロジェクト「北渋ギャラリー」は、アーティストや学校などの発表の機会を作っていきます。また昨年度の活動から、活動費は「地域の連携を深める広報活動」として位置付け、「北渋月間、北渋ランなどの他のイベントとの連携」「新国立劇場やオペラシティとの連携」を想定したものとします。

(ササハタハツエリアのまちづくりに貢献する点)

北渋ギャラリーの施策は、エリアビジョンに示されている共通原則「シチズン・イニシアティブ」「インクルーシブ」に基づき、コミュニティ強化、パブリックスペースの活用、文化芸術歴史を切り口としながら、このエリアならではの賑わいを生み出すことに寄与します。

北渋エリアの資産であるパブリックスペースや店舗等と、潜在アーティストの関わり合いを作り出し、相互の発信の機会を作ります。地域の人材と場が関わり合う姿が見られるようになります。

⑤ ササハタハツまち遺産探検隊



(プロジェクト概要)

まちで見つけたなんだか気になるもの、未来に遺したいもの、心をとらえるもののすべてが「まち遺産」です。将来のまちづくりの担い手となる子どもたちを主役に据えて、大人も子どもも、地域住民も地域外の人、一緒になって「まち遺産」を探することで、「まちを見る目」が養われ、今まで気づかなかった「まちの魅力」「まちの面白さ」を発見し、シティプライドの醸成にもつながっていきます。やがては活動に参加した子どもたちが、10年後、20年後、まちづくり活動に寄与する存在に育っていくでしょう。

また、玉川上水旧水路緑道、水道道路などササハタハツの資産といえるものの歴史やそこに住む人の思い出を収集すること、収集したものを多世代へ共有していくことが、新たな観光振興になるとともに、新たな地域コミュニティを創出し、ササハタハツエリアの暮らしの質向上にもつながると考えています。活動を通じて発見したササハタハツの「まちの魅力・面白さ」をマップ等に「見える化」することで、まちの価値を広めていきたいとも考えています。

(ササハタハツエリアのまちづくりに貢献する点)

「まちの話」は、すべての住民の共通の話題です。「この公園は、昔牧場だったんだよ」と伝えられると、子どもたちの目が輝きます。「まちの歴史を知る」とは、年表に書かれた史実を学ぶだけではなく、自分の今の生活とつながる誰かの暮らしを知ることなのだと感じます。ササハタハツまち遺産探検隊においては、長くまちに住む方たちは思い出に基づくまちの歴史を伝えるガイド役を担い、それを受け取る若い世代は、未来の街の創造者となります。「まちの歴史」「まち遺産」というコンテンツを通じて、多世代がかかわる新たなコミュニティを形成するとともに、ササハタハツが誇るべき歴史・文化の発見、伝達に寄与します。

3.4. まちラボが関わるまちの取り組みマップ (2022~2024)

